

2023年度

全学教育科目履修案内

●この履修案内に記載している履修基準は2023年度入学者に適用します。

●休講・補講情報は「授業支援システム(LMS)」、「学生情報システム」のうち、いずれかの方法で伝えますので、必ず確認するようにしてください。



YNU 授業支援システム (LMS)

<https://lms.ynu.ac.jp/>



学務情報システム

https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/

※「学生情報システム」は学務情報システムログイン後の
トップページからアクセスしてください。

横浜国立大学

高大接続・全学教育推進センター

○目次

I. はじめに	2
1. 全学教育科目履修案内について	2
2. 学生への連絡方法について	2
3. 授業科目 WEB シラバスについて	2
II. 全学教育科目とは	4
1. 横浜国立大学の教育目標について	4
2. 全学教育科目の目的について	4
3. 全学教育科目の特色について	4
4. 全学教育科目の編成について	6
III. 全学教育システムの仕組み	9
1. 学期と授業時間	9
2. 全学教育科目の履修の流れ	11
3. 全学教育科目の履修手続き	13
IV. 全学教育科目の履修方法	14
1. 全学教育科目履修基準について	14
2. 全学教育科目の履修登録単位数の上限について	14
3. 全学教育科目の履修について	16
4. 基礎科目の履修について	19
5. 英語科目の履修について	20
6. 初修外国語科目の履修について	32
7. 健康スポーツ科目の履修について	36
8. グローバル教育科目の履修について	37
9. イノベーション教育科目の履修について	38
10. 高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）について	39
11. 放送大学科目の履修について	39
12. 留学生のための授業科目について	40
13. 教育職員免許状について	42
V. 全学教育科目の単位の認定	43
1. 定期試験について.....	43
2. 定期試験の受験上の注意について	43
3. 追試験について	44
4. 授業科目の成績評価について	46
VI. 学外や海外における授業科目の履修等	49
1. 修得単位の認定について	49
2. 横浜市内大学間単位互換制度の履修について	49
3. 放送大学単位互換制度（特別聴講学生）について	49
4. 派遣留学先の授業科目の認定について	49
VII. YNU 学生ポートフォリオについて	50
VIII. 2023 年度開講全学教育科目一覧	51

I. はじめに

1. 全学教育科目履修案内について

全学教育科目履修案内は、横浜国立大学の学生として、全学教育科目の授業を履修するにあたり、必要な情報を記載しています。学生のみなさんは、所属学部の履修案内（履修手引）により全学教育科目の履修基準（卒業に必要な修得すべき単位数）等を確認の上、この履修案内と時間割表（別途掲示）とともに、全学教育科目のWEBシラバスを参照して、無理なく授業に出席すること、これに加えて自宅等での十分な授業外学修時間が確保できるよう履修計画を立ててください。

この履修案内は、学生のみなさんが卒業するまで4年間使用するものですので、紛失しないよう大事に扱ってください。また、疑問な点や不明なことがあれば、独自に解釈せず、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

所属学部	所属学部の履修案内の冊子名称	所属学部の学務担当係
教育学部	履修手引	教育学系学務係（教育学系事務棟 S3-3）
経済学部	学部教育履修案内	経済学務係（経済学部 1号館 N4-1）
経営学部	履修案内	経営学務係（経営学部 1号館 N3-4）
理工学部	理工学部履修案内	理工学部教務係（理工学系事務棟 N8-4）
都市科学部	都市科学部履修案内	都市科学部学務係（工学基礎研究棟 S5-6）

※学務担当係の業務時間は、平日の8時30分～17時00分です。

ただし、12時45分～13時45分は窓口業務を行っていません。

2. 学生への連絡方法について

全学教育科目に関する学生への連絡事項は、「授業支援システム（LMS）>【連絡専用】教育企画課全学教育係」、「所属学部の授業支援システム（LMS）等」、「学生情報システム」のうちのいずれかの方法で伝えますので、日頃から確認する習慣を身につけてください。この履修案内に変更が生じた場合も同様であり、連絡事項の見落としにより、授業のオリエンテーションを欠席したり、休講や教室変更の情報が得られなかったり、レポートの提出期限に遅れたりなど不利益を生じることがあります。

大学生活において、学生自身の行動に責任を負うことが大学生として最低限のルールであり、学生自身の不注意により生じた不利益は自己の責任となります。

3. 授業科目WEBシラバスについて

授業科目WEBシラバスは、各年度開講する授業概要（授業計画、履修目標・到達目標、成績評価の方法と基準、教科書・参考書等）に関する情報が掲載されています。

WEBシラバスは「学務情報システム」→「シラバス検索」で見ることができます。

Q：シラバスとは何ですか？

A：「シラバス (Syllabus)」とは、授業科目の概要 (学生の学修計画) を示したものです。

授業科目ごとの授業内容、履修目標・到達目標、成績評価の方法と基準、教科書・参考書等が明示されており、学生のみなさんが多くの授業科目の中から選択する際の道しるべとなる有益な情報がたくさん盛り込まれています。履修登録を行う前に、履修しようとする授業科目の詳細を必ず確認しましょう。

また、シラバスは、授業の履修途中において学修を進める上で役立てることができます。例えば、授業時間外の学修内容、参考図書、参考 URL、成績評価の基準など学修に役立つ情報が示されています。シラバスをプリントアウトして授業のファイルに入れて毎回持参する、ノートに貼り付けるなどしておくとい良いでしょう。

シラバス項目例

授業の計画	授業全体のスケジュールと各回の授業内容を示しています。学修計画を立てる際の参考にしてください。
授業時間外の学修内容	授業全体を通して授業前に予習すべき内容、授業後に復習すべき内容を示しています。単位は授業時間前後の予習復習を含めて認定されます。
履修目標	授業で扱う内容 (授業のねらい) を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。履修目標を超えて主体的に学修したと認められる場合のみ、成績評価「秀」となります。
到達目標	授業を履修する学生が最低限身につける内容を示す目標です。到達目標を達成すると成績評価「可」となりますが、さらなる学修を必要としている段階です。
成績評価の方法	成績評価の方法と評価の配分を示しています。また、成績評価の基準として、授業別ルーブリックが表示される場合があります。評価項目と成績評価の基準との関係性が確認できます。
授業の方法	授業担当教員がどのように進めるのか、課題提出などの情報もあわせて示しています。学修計画を立てる参考にしてください。

Q：学修計画 (履修時間割表) が正しく作れるか不安です。

A：大学では、学修計画 (履修時間割表) を学生自身で作成することになります。この履修案内と所属学部の履修案内 (履修手引) を授業開始前まで十分に理解しましょう。

履修時間割表は、所属学部のカリキュラムツリーや履修モデル等を参照しつつ、①必修科目、②選択必修科目、③選択科目の順に授業を選んでいくとスムーズに作成できます。履修登録は、履修登録期間、履修確認・訂正期間、履修登録キャンセル期間のそれぞれの期間 (P.11) を把握し、これら期間内に間違いがないよう手続きしてください。

もし何の授業科目から履修すればよいのか少しでも不安があるときは、分からないことをよく整理して、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

II. 全学教育科目とは

1. 横浜国立大学の教育目標について

本学は、専門性を基礎としつつ調和のとれた教育体系のもと、主体性と倫理性を養う豊かな教養教育を行い、少人数教育と実践的教育の伝統的な強みを活かしてグローバル新時代に求められる多様な視点を有する広い専門性を持った実践的人材を育成します。

特に、アジア等から多くの留学生が学び、留学生比率が高いという本学の特色をさらに強化し、国際性が豊かで、共生社会の構築に貢献する教育拠点を目指しています。

2. 全学教育科目の目的について

本学は、従来の教養教育・専門教育という枠組みを廃止し、「全学教育」「学部教育」から構成する“学士の学位を授与する教育課程プログラム”（学士プログラム）単位でカリキュラムを編成しています。全学教育科目とは、教養教育の目標実現に向けて全学部を横断して開講する授業科目です。

<教養教育の目標> 横浜国立大学の教養教育は、実践性、先進性、開放性、国際性の4つの精神の下、次の4つの目標の実現を目指します。

1. さまざまな学問を主体的に学び、幅広い教養を身に付け、専門分野に必要な基礎学力を修得する。
2. 現代社会が直面する諸課題を論理的・批判的・創造的に考える力を養う。
3. 国際感覚を養い、異文化への理解を深め、コミュニケーション力を高める。
4. 人としてあるべき姿を自覚した倫理観と社会を構成する者としての責任感を育む。

3. 全学教育科目の特色について

全学教育科目は、教養教育の目標を実現し、全学部を横断した授業開講により学問の多様性を幅広く修得させるとともに、学年（年齢）や人種を越えたダイバーシティの視野を広げる高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）を導入しています。本学の全学教育システムは、学部教育科目と並行して学部4年間を通じた履修（いわゆるパラレル型履修）とともに、次のような特色があります。

<全学教育科目の特色>

- ①学生の所属学部の学科・課程・EP等（以下、学科等）（学士プログラム）が指定する授業科目を履修
- ②順次性のある体系的に科目履修を可視化する科目ナンバリングを活用
- ③全学教育科目の履修登録の上限を Semester 12 単位に設定。ただし、グローバル教育科目の指定科目は Semester 12 単位を超えて履修可
- ④英語教育はすべて TOEFL-ITP レベル別指定クラス編成を導入し必修化
- ⑤初修外国語教育（英語以外）は履修年次の学部指定による多言語から選択
- ⑥高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）を導入し、3-4 年次の高学年において所属学部が指定する授業科目を履修
- ⑦大学院全学教育科目のうち学部生に開放している科目は、学部4年次に履修することが可能

Q：学士プログラムとは何ですか？

A：我が国では、学部教育課程を「学士課程」、大学院教育課程を「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程」といいます。学生のみなさんが所属する学部の学科等には、“学士の学位を授与する教育課程プログラム”（学士プログラム）が置かれ、所属する学部の学士プログラムの卒業認定を受けて、学長から「学士」の学位が授与されます。

学士プログラム

学部名	授与する学位（専攻分野）
教育学部	学士（教育）
経済学部	学士（経済学）
経営学部	学士（経営学）
理工学部	学士（理学）、学士（工学）
都市科学部	学士（学術）、学士（工学）、学士（環境学）

Q：大学の履修登録はどうするのですか？

A：新入生のみなさんの多くが最初に戸惑うのは履修登録です。高校までは学校が定めた時間割で授業を受けていましたが、大学では学生自身が履修する科目を選び、履修時間割表を作成します（P.11）。もちろん、すべて自由に選べるものではなく、主に1～2年次に履修する基礎科目や英語科目、学部学科ごとに必修科目と選択科目等があります。

また、卒業に必要な単位数や科目区分ごとに必要な履修の要件、これら履修できる単位数の上限など学部の学科等（学士プログラム）により異なります。

この冊子「全学教育科目履修案内」と「所属学部の履修案内（履修手引）」の両方で必ず確認してください。

Q：授業の単位は高校と同じですか？

A：受験競争を勝ち抜いてきた新入生のみなさんにとって「学ぶ」とは、いかに早く正解に到達することだったのではないのでしょうか。“大学で学ぶ”とは、授業を単に聞いて覚えることではなく、学生自身で考えることから始まり、自分でテーマを見つけ、仮説を立て、思考したり、調べたり、実験したりしながら、真理に迫るプロセスのことです。大学の学び方で大事なことは、授業の《単位》という概念です。

本学の学則では、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」（第44条）と定めています。一般的な2単位授業は90時間の学修が必要とされます。1回90分（2時間換算）の授業を15回履修すると合計30時間（換算）となりますので、この残り60時間は学生自身が授業の予習・復習、レポートなどの課題、その関連する内容の自発的な授業外学修が必要となります。すなわち、大学教員から授業中に与えられた課題をこなす受動的な学びではなく、授業から触発された関心や問題意識により自ら探究する《主体的な学び》を期待しています。

このような“大学の学び”を十分に理解し、学修時間をしっかり確保できるよう無理のない4年間の履修計画を立ててください。

4. 全学教育科目の編成について

全学教育科目は、基礎科目（人文社会系科目、自然科学系科目）、外国語科目（英語科目、初修外国語科目、日本語科目）、健康スポーツ科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目から編成されています。

これらのほか、幅広い教養や自らの関心を深め、視野を広げるため、基礎科目と外国語科目において、放送大学科目（特別聴講学生）を履修することができます。

(1) 基礎科目

教養教育の中心となる科目群であり、基礎学力、論理的思考力、問題解決能力など学部生として、また社会の一員として基本的な知識と教養、学部教育に必要な知識を身に付けます。基礎科目は、人文社会系科目と自然科学系科目から編成されています。

(2) 外国語科目

外国語科目は、英語科目、初修外国語科目、日本語科目から編成されています。

① 「英語科目」

すべて TOEFL レベル別の指定クラス編成とし、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）が指定する英語科目を履修します。1年次では英語の4技能「聞く (Listening)、読む (Reading)、話す (Speaking)、書く (Writing)」を学ぶために、すべての学部で英語実習4科目4単位を必修としています。2年次以降は自主的な学修が英語実習よりも求められる英語演習を履修します。英語演習を履修するためには科目のレベルに応じた TOEFL-ITP スコアが必要です。2年次以上を対象とする英語演習を1科目2単位履修するためには TOEFL-ITP450 点以上を、同科目を2科目4単位履修するためには TOEFL-ITP500 点以上のスコアを必要とします。本学では、TOEFL-ITP520 点の取得を目標としています。

なお、この TOEFL-ITP テストは、入学時（4月）にプレACEMENTテストとして、1年次の秋学期末（2月）に英語統一テストとして年2回実施します。

このほか希望学生向けにキャンパス内で TOEFL-ITP（学内・不定期実施）を実施します。

② 「初修外国語科目」

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、ロシア語、中国語、ギリシア語、ラテン語の7言語を開講し、学生の所属学部ごとに指定された履修年次（1年次または2年次いずれかの春学期、ただし教育学部を除く）から履修します。

③ 「日本語科目（留学生向け）」

日本語科目は、留学生のみが履修できる科目として開講し、大学で学習する上で必要な日本語力を育成します。入学時の日本語プレACEMENTテストにより、1年春学期に履修することができる日本語クラスのレベル（中級・上級）を指定します。外国語科目との代替単位は所属学部の学科等（学士プログラム）により異なります。

(3) 健康スポーツ科目

健康スポーツ科目は、スポーツを楽しむことを通じ、心身の健康、体力の向上、生涯スポーツ活動への関心を高め、心身のバランスのとれた学生を育成します。世界の長寿国である日本の平均寿命は高いものの健康寿命との差は10歳以上あります。健康寿命が長い人と短い人の差は引退後の日常生活ではなく、とりわけ10代後半から20代までの生活習慣（運動や食生活）の差にあります。わが国では、小学校・中学校・高等学校において体育は必修科目であります。本学では教育職員免許状取得学生以外は選択科目です。2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催によって、スポーツへの関心が高まった現在、自分のからだを育てるスポーツの重要性を実感できるのが、健康スポーツ科目です。

(4) グローバル教育科目

グローバル教育科目は、グローバル人材に必要とされる主体的な異文化適応力や外国の知識・教養などを学ぶ科目です。

①「世界事情科目」

21世紀グローバル新時代では、世界的な経済発展の軸がシフトしたアジア等新興国の多様な社会制度、文化、宗教や商慣習等の理解が重要であり、これら新興国等の国や地域別の事情を学ぶ新しいジャンルの授業科目です。また、世界事情の理解を深めるための授業科目も含まれます。これとは別に留学生のための授業科目として「日本事情」を開講します。

②「国際交流科目」

グローバル教育科目（国際交流科目）は、都市科学部都市社会共生学科及び国際戦略推進機構が共同運営する「YOKOHAMA Creative-City Studies(YCCS)特別プログラム」の英語による授業科目です。これらの科目はYCCS特別プログラム学生（留学生）や外国の協定校からの短期交換留学生を対象とした科目ですが、すべての学部生が履修できます。英語を通じて知識やスキルを学ぶ科目や留学生と協働する授業で異文化コミュニケーションを実践する科目によって構成されています。

③「海外研修」

国際戦略推進機構が実施する海外（語学）集中キャンプや海外ショートビジット（SV）等により単位が認められる場合の授業科目です。なお、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）により卒業に必要な単位には算入されない場合がありますので、所属学部の学務担当窓口で確認してください。

(5) イノベーション教育科目

イノベーションとは、新しい価値の創造をもたらす革新のことです。イノベーション教育科目では、イノベーションの基本と価値観やパラダイムのイノベーションについて学ぶ入門的基幹知（領域）、科学技術そのもののイノベーションについて学ぶ技術革新思考（領域）、制度や社会システムのイノベーションについて学ぶ社会実装戦略（領域）、主体的な学びの姿勢を養い自律的キャリア形成を促すキャリア形成実践知（領域）の4つの領域を設定しています。

(6) 学部向け大学院全学教育科目

大学院の授業科目は、原則として科目を開設する研究科・学府の学生しか履修できませんが、すべての研究科および学府の学生が履修できる科目のことを大学院全学教育科目といいます。この大学院全学教育科目のうち、学部生に開放している科目を「学部向け大学院全学教育科目」といい、学部4年次に履修することが可能です。なお、修得した単位の取扱いとしては、都市科学部以外は卒業に必要な単位には算入されませんので、注意してください。

開講科目については横浜国立大学大学院教育強化推進センターのWEBサイトで公開されます。詳細は所属学部の学務係に相談してください。

Q：大学の授業は難しくないですか？

A：大学の授業、例えば講義形式の授業を受講すると、初めの頃は難しく感じるでしょう。高校までの授業とは、かなり違った方法で授業が進んでいくからです。

大学の授業は、板書をノートに取って、あるいは配付されたスライドの内容を覚えるだけでは本当に学んだことになりません。授業の内容は、高校よりも高度に専門的となり、学生自身で考えるプロセスを踏んでいかないと次第に難しくなっていきます。

大学の授業は、学生のみなさんにある決まった知識を与えているのではなく、学生自身で考えるための材料を与えています。“大学で学ぶ”とは、授業を単に聞くことではなく、学生自身で考えることから始まります。疑問に感じたら、授業担当の教員に質問することが自分自身で考える良いきっかけになります。図書館に行って関連する書籍や文献を探して読んでみることもいいですね。

Q：学生が教員の研究室を訪ねていいですか？

A：授業内容について質問があるときは、事前に教員に連絡してから研究室を訪ねてください。連絡先は、学内で学務情報システムを経由することで、WEBシラバスから調べることができます。また、研究者総覧からも調べることができます。

オフィスアワーを設定している教員の場合は、事前の連絡は不要です。

連絡先を公開していない、またオフィスアワーを設定していない教員の場合は、授業後に質問してください。

Ⅲ. 全学教育システムの仕組み

1. 学期と授業時間

(1) 2学期6ターム併用制について

本学の学事暦は、2学期6ターム併用制を採用し、授業科目は Semester 科目（学期科目）とターム科目があります。

Semester 科目は、1年間の春学期と秋学期の2つの学期に分け、休業期間を除く16週の授業期間で完結する科目です。

ターム科目は、1年間の6つのタームに分け、春学期授業期間（第1・第2ターム）、秋学期授業期間（第4・第5ターム）で開講し、講義科目の1単位は1ターム8週（2単位の場合は1ターム週2回8週）の授業期間で完結する科目です。

また、夏季休業期間（第3ターム）、春季休業期間（第6ターム）には、ターム科目の集中講義を開講する場合があります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
春学期						秋学期						
春 Semester 科目				夏季休業期間		秋 Semester 科目			休	春季休業期間		
第1ターム科目		第2ターム科目		第3ターム科目		第4ターム科目		第5ターム科目		第6ターム科目		

(2) 全学教育科目の授業科目について

全学教育科目の授業科目は、基本的に Semester 科目で開講され、春学期または秋学期に16週の授業期間で実施します。

ただし、理工学部・都市科学部が開講する全学教育科目（基礎科目）の一部は、ターム科目1単位で開講されます。第1・第2ターム（春学期）または第4・第5ターム（秋学期）連続16週の授業期間で実施され、実質的には Semester 科目と同様の授業期間となります。

例えば、生物の世界Ⅰ（第1ターム1単位）、生物の世界Ⅱ（第2ターム1単位）は2科目セット履修を奨励しますが、単位認定は各々の授業科目ごとに行われます。

(3) 学事暦について

学事暦（前づけ）は、1年間の行事予定（入学式、定期試験や大学祭等）を次の記号で表示します。

無地（黒字） 授業を開講する日です。

灰地（黒字） 授業を開講しない日です。

太枠無地（黒字） 祝日において授業を開講する日です。

○囲み（黒字） 英語統一テストの実施日で1年生は原則として受験します。

黒地（白字） 定期試験期間です。なお、Semester 科目の場合、春学期前半（第1ターム）と秋学期前半（第4ターム）の試験期間は、通常どおり授業を行います。

灰地（白字） 定期試験期間の予備日です。なお、ターム科目の春学期前半（第1ターム）と秋学期前半（第4ターム）の試験の予備日は、あらかじめ設定されていないので、開講部局において別に定めます。

◇囲み（黒字） 授業振替日です。2023年12月26日（火）は金曜日の授業を実施します。

(4) 授業時間について

本学の授業時間は、以下のとおりです。

時 限	授業時間
第1時限	8 : 5 0 ~ 1 0 : 2 0
第2時限	1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
第3時限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
第4時限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0
第5時限	1 6 : 1 5 ~ 1 7 : 4 5
第6時限	1 7 : 5 0 ~ 1 9 : 2 0
第7時限	1 9 : 2 5 ~ 2 0 : 5 5

Q : ターム科目をあまり見かけないのですが？

A : 2 学期 6 ターム併用制は、2017 年度から導入し、ターム科目は都市科学部を中心に開講しています。したがって、現時点では都市科学部以外の学部では、あまり見かけない開講方法ですが、今後少しずつ開講されていく予定です。

Q : 2 科目セット履修したターム科目「生物の世界 I・II」の第 1 ターム開講科目の単位は修得し、第 2 ターム開講科目の単位は落としましたが、どうすればいいですか？

A : 全学教育科目のほとんどがセメスター科目 (16 週) ですが、ターム科目 (8 週) が一部存在します。全学教育科目のターム科目は「I・II」と 2 ターム連続して開講されるため、2 科目セット履修を奨励していますが、単位認定は各々の授業科目ごとに行われます。

したがって、「不可」となった第 2 ターム開講科目のみを翌年度以降に再履修するか、履修を放棄するかになります。ただし、履修を放棄する場合は、GPA の計算上不利になるので注意してください。

また、教職課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」の場合は、2 科目セット履修が義務付けられる場合がありますので、必ず確認してください。

Q : 英語統一テスト (TOEFL-ITP テスト) は必ず受講するのですか？

A : 英語統一テスト (TOEFL-ITP テスト) を 1 年生は原則受験しなければなりません。4 月プレイスメントテストは「TOEFL レベル別クラス編成」のため、2 月英語統一テストは「英語 LR」の定期試験として実施します。

なお、必修科目の「英語 LR」は、2 月英語統一テストの際に TOEFL-ITP430 点以上のスコアを獲得できないと単位を修得できませんので、2 年次に再履修となります。

2. 全学教育科目の履修の流れ

全学教育科目の授業開始・履修登録から定期試験までの流れは、次のとおりです。

① 授業開始日	
春学期	春セメスター／第1ターム : 2023年 4月 7日 (金) ~ 第2ターム : 6月 9日 (金) ~ 第3ターム (夏季休業期間): 8月 5日 (土) ~
秋学期	秋セメスター／第4ターム : 2023年10月 5日 (木) ~ 第5ターム : 12月 4日 (月) ~ 第6ターム (春季休業期間): 2024年 2月10日 (土) ~
② 履修登録期間 (土日は除く)	
春学期	春セメスター／第1・第2・第3ターム 2023年 4月 7日 (金) ~ 4月20日 (木)
秋学期	秋セメスター／第4・第5・第6ターム 2023年10月 5日 (木) ~ 10月18日 (水)
※履修希望学生が履修定員を上回る科目は授業開始第1週目または第2週目に「受講調整」を実施する。 ※第3ターム (夏季休業期間)、第6ターム (春季休業期間) の別に定める授業科目がある。	
③ 履修登録確認・訂正期間 (土日は除く)	
春学期	春セメスター／第1・第2・第3ターム 2023年 5月 8日 (月) ~ 5月10日 (水)
秋学期	秋セメスター／第4・第5・第6ターム 2023年10月23日 (月) ~ 10月25日 (水)
④ 履修登録キャンセル期間 (土日は除く)	
春学期	春セメスター／第1ターム 2023年 5月15日 (月) ~ 5月19日 (金) 第2ターム 2023年 6月26日 (月) ~ 6月30日 (金)
秋学期	秋セメスター／第4ターム 2023年11月 6日 (月) ~ 11月10日 (金) 第5ターム 2023年12月11日 (月) ~ 12月15日 (金)
※第3ターム (夏季休業期間)、第6ターム (春季休業期間) は別に定める。	
⑤ 定期試験期間	
春学期	第1ターム 2023年 6月 2日 (金) ~ 6月 8日 (木) 春セメスター／第2ターム 2023年 7月28日 (金) ~ 8月 4日 (金)
秋学期	第4ターム 2023年11月27日 (月) ~ 12月 1日 (金) 秋セメスター／第5ターム 2024年 2月 1日 (木) ~ 2月 8日 (木)
※第3ターム (夏季休業期間)、第6ターム (春季休業期間) は別に定める。	

(1) 履修登録・履修登録期間について

履修登録とは、その学期 (セメスター科目・ターム科目) に履修しようとする授業科目を登録する手続きをいいます。

履修登録は、春学期と秋学期の各学期に分けて行います。また、ターム科目の履修も同様に学期ごに行い、例えば第1ターム、第2ターム、第3タームに履修する授業科目は春学期履修登録期間に科目登録を行います。

学期	履修登録対象科目
春学期	通年科目、春セメスター科目、第1ターム・第2ターム・第3タームに開講する科目
秋学期	秋セメスター科目、第4ターム・第5ターム・第6タームに開講する科目

履修登録は、学部指定のパソコン教室や自宅等から WEB 上の「学務情報システム」にログインし、「履修登録期間」内に必ず手続きを終える必要があります。

なお、学務情報システムの操作方法は「学生便覧」を参照してください。

(2) 履修確認・訂正期間について

履修確認・訂正期間には、履修時間割表を各自で印刷し、各自の履修計画どおりに履修登録されているか確認を行います。

履修確認の結果、履修計画どおり登録できなかつたり、受講調整による履修不許可であったり、エラー科目があつたりする場合は、訂正期間内に訂正を行います。なお、履修登録期間内に履修登録をしていないと、訂正を行うことができませんので、注意してください。

(3) 履修登録キャンセル期間について

履修確認・訂正期間の後に、授業内容が学生自身の予想や理解と異なっていた理由等により当該科目の履修を取りやめたい場合は、「履修登録キャンセル期間」内に学務情報システムで手続きを行います。履修登録のキャンセル以外の手続きはできません。

履修登録のキャンセル手続きを行わずに履修を取りやめた場合は、その科目の成績は「不可」として取り扱われ、GPA の計算上不利になるので注意してください。

なお、第3ターム（夏季休業期間）と第6ターム（春季休業期間）における集中科目等の履修登録キャンセル期間は、別に設けられている場合がありますので、所属学部の学務担当窓口で確認してください。

(4) 補講の実施について

全学教育科目では、台風等気象警報の発令等による休講により生じた授業内容の不足分を補うため、科目担当教員の判断により授業開講日以外に補講を実施することがあります。補講の実施日及び時限等については、担当教員から別途連絡いたします。

(5) 定期試験について

全学教育科目の単位は、原則として試験を行った上でその成績により授与されます。

試験は、原則としてセメスター科目、ターム科目ごとに定期試験期間を定めていますが、科目担当教員の判断により定期試験期間以外に行うことがあります。

3. 全学教育科目の履修手続き

全学教育科目の履修には、履修登録を行う必要があります。

履修登録の方法及び日程については、この履修案内のほか、所属学部のオリエンテーションまたは授業支援システム (LMS) により連絡します。特に、英語科目は入学時のプレイスメントテスト (TOEFL-ITP テスト) によるレベル別指定クラスとなりますので、必ず授業支援システム (LMS) 等を確認してください。

(1) 受講調整

全学教育科目は、適正な授業運営や教育効果の向上、教室の収容能力により各授業科目に履修定員が設定され、履修学生数の上限を定めています。履修を希望する学生が当該授業科目の履修定員を上回る場合は受講調整を行います。事前に履修希望を申し出なかった学生 (受講調整を実施する日に授業を欠席した者) は履修できません。

受講調整の詳細な情報は、授業支援システムで公表します。なお、必修科目の履修希望学生と3年次・4年次以上の履修希望学生が優先されることになります。

受講調整の結果は、翌週の授業の前日まで (月曜開講の科目は直前の金曜まで) に授業支援システムで発表します。受講調整を実施した科目は、受講を許可された学生しか履修登録できないので注意してください。

(2) 履修登録後の留意点

履修登録完了後 (訂正期間後) は登録した科目の変更は認められません。学生自身が必ず学務情報システムから履修時間割表を印刷して内容を確実に確認してください。

履修確認・訂正期間後に本人の確認不足等の理由により履修登録科目の訂正を申し出ても認められません。

履修登録後、登録授業科目を履修しない場合 (授業内容が予想や理解と異なっていた等) は、履修登録キャンセル期間中に履修科目のキャンセル手続きを行うことができます。手続きをしない場合は、当該授業科目の評価は「不可」となり、GPA の計算上不利になるので注意してください。

Q : 履修時間割表には、月曜日から金曜日まで授業を入れなければならないですか？

A : 高校までとは異なり、卒業に必要な科目・単位数を確認し、無理なく十分な学修時間が確保できるよう履修計画 (履修時間割表) を作成しましょう。また、所属学部では、履修登録の上限 (全学教育科目は Semester 12 単位) が設定されており、必ずしもすべての曜日・時限に授業が入ることはありません。

Q : 全学教育科目は、初回授業から必ず教科書が必要ですか？

A : 必修科目以外の科目ならば、WEB シラバスや授業支援システム (LMS) 等で指示がない限り、教科書を購入せずに初回授業に参加しても構いません。教科書を購入して授業に参加しても、受講調整によってその授業が履修できなくなることがあります。

IV. 全学教育科目の履修方法

1. 全学教育科目履修基準について

全学教育科目の履修基準は、入学年度ごとに学生の所属学部の学科等（学士プログラム）において「卒業に必要な修得すべき単位数」の基準として定めており、その基準に従って履修しなければなりません（2023年度入学者は P.15 履修基準表参照）。

また、本学では高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）を導入しています（P.39）。経済学部、経営学部、都市科学部の学生は、履修基準表（P.15）とは別に、所属学部の指定する授業科目を3-4年次の高学年において履修することを義務づけられていますので、所属学部の履修案内（履修手引）を必ず確認してください。

2. 全学教育科目の履修登録単位数の上限について

全学教育科目の履修登録は、春semester（第1ターム及び第2タームの合計）12単位、秋semester（第4ターム及び第5タームの合計）12単位が上限です。この上限を超えて履修登録はできません。ただし、グローバル教育科目（国際交流科目）は、12単位に加えて4単位を上限に超過して履修登録ができます。なお、グローバル教育科目（国際交流科目）を4単位超過して履修登録するとシステム上エラー表示が発生しますので、その他履修登録単位数に問題がない場合は、所属学部の学務担当窓口で確認してください。

この履修登録の上限には、夏季休業期間（第3ターム）及び春季休業期間（第6ターム）に開講する集中講義、別に掲示する集中・不定期開講科目、放送大学科目は含まれません。

Q：高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）とはどのような仕組みですか？

A：高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）とは、学年（年齢）や人種を越えたダイバーシティの視野を広げるとともに、全学部を横断した科目開講により学問の多様性を幅広く修得する制度です。

このシステムでは、学生の所属学部が指定する授業科目を3-4年次において履修します。

なお、グローバル教育科目およびイノベーション教育科目は、高年次履修システムが適用される授業科目であり、3-4年次において履修しますが、これら授業科目の履修定員に欠員があれば1年次学生も履修可能です。ただし、1-2年次において履修した場合は、高度全学教育指定科目としては扱われません。また、履修希望者が履修定員を上回る場合は、3年次以上、2年次の順に優先履修とし、受講調整を行います。

2023 年度入学者 全学教育科目履修基準表<単位>

学部	学科・課程・EP 等		基礎科目		外国語科目	健康 スポーツ 科目	グローバル 教育科目	イノベーション 教育科目	全学教育 科目合計	
			人文 社会系	自然 科学系						
教育学部	学校教員養成課程		4 以上	2 以上	英語科目 4 以上 初修外国語科目選択(0 以上)	2 以上	選択 ^{※1} (0 以上)	選択 ^{※1} (0 以上)	16 以上	
経済学部	経済学科		4 以上	4 以上	英語科目 8 以上 ^{※2} 初修外国語科目 2 以上	選択 (0 以上 2 以下)	選択 (0 以上)	選択 (0 以上)	34 以上	
	経済学科 DSEP									
	経済学科 LBEEP		4 以上 ^{※3}							
経営学部	経営学科		4 以上	4 以上	英語科目 8 以上 ^{※2} 初修外国語科目 2 以上	選択 (0 以上 2 以下)	選択 ^{※4} (0 以上)	選択 (0 以上)	34 以上	
	経営学科 社会人教育プログラム		選択 (0 以上)	選択 (0 以上)	英語科目 4 以上				20 以上	
			16 単位は自由に選択が可能						34 以上	
経営学科 DSEP		4 以上	4 以上	英語科目 8 以上 ^{※2} 初修外国語科目 2 以上				34 以上		
理工学部	機械・材料・ 海洋系学科	機械工学 EP	4 以上	2 以上	英語科目 6 以上 初修外国語科目 2 以上	選択 (0 以上 2 以下)	選択 (0 以上)	選択 (0 以上)	24 以上	
		材料工学 EP		4 以上					26 以上	
		海洋空間の システム デザイン EP							24 以上	
	化学・生命系 学科	全 EP	4 以上	4 以上	英語科目 6 以上 初修外国語科目 2 以上	選択 (0 以上 2 以下)	選択 (0 以上)	選択 (0 以上)	30 以上	
	数物・電子 情報系学科	数理科学 EP	4 以上	4 以上	英語科目 6 以上 初修外国語科目 2 以上	選択 (0 以上 2 以下)	選択 (0 以上)	選択 (0 以上)	30 以上	
		物理工学 EP		2 以上					24 以上	
		電子情報 システム EP		2 以上					20 以上	
		情報工学 EP		4 以上					24 以上	
	都市科学部	都市社会共生学科		4 以上	4 以上	英語科目 6 以上 初修外国語科目 4 以上 外国語科目合計 12 以上 ^{※6}	選択 (0 以上 2 以下)	選択 (0 以上)	選択 (0 以上)	30 以上
		建築学科				英語科目 6 以上 初修外国語科目 2 以上 外国語科目合計 10 以上 ^{※6}				
都市基盤学科										
環境リスク共生学科										

※1 履修方法の詳細は、教育学部履修手引を確認してください。

※2 経済学部および経営学部の英語科目 8 単位以上には、経済学部および経営学部がそれぞれ開講する英語演習科目の単位数が含まれます。詳細は学部の履修案内を確認してください。

※3 4 単位以上のうち、4 単位は『現代政治（日本）』『現代政治（国際）』『日本国憲法』『現代社会と法』『社会の制度を考える』から履修してください。

※4 経営学部では、グローバル教育科目「海外研修」は増加単位として扱われ、卒業に必要な単位として算入することはできません。

※5-1 理工学部数物・電子情報系学科 物理工学 EP 及び電子情報システム EP のグローバル教育科目 4 単位以下の内訳は、「世界事情科目」または「海外研修」から 2 単位以下、「国際交流科目」から 2 単位以下となります。

※5-2 理工学部数物・電子情報系学科 情報工学 EP では、グローバル教育科目 4 単位以下の内訳を設けません。

※6 都市科学部外国語科目のうち英語と初修外国語の最小単位の加算を超える 2 単位は、英語または初修外国語科目から選択して履修してください。

※7 履修基準の詳細は、入学年度の学部の履修案内にて確認してください。

※8 上記と学部の履修基準表（履修案内）と相違がある場合には、学部の履修基準表を正としてください。

★ 高度全学教育指定科目の履修については、P.39 を確認してください。

★ 学部向け大学院全学教育科目の取扱いは、P.8 を確認してください。

3. 全学教育科目の履修について

(1) 開講時限について

本学は、従来の教養教育・専門教育という枠組みを廃止し、「全学教育」「学部教育」とする学科等（学士プログラム）単位でカリキュラムを編成しています。全学教育科目は、学部教育科目と並行して、学部4年間を通じた履修（いわゆるパラレル型履修）であり、全学部を横断した授業開講により学問の多様性を幅広く修得するとともに、学年（年齢）や人種を越えたダイバーシティの視野を広げる高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）を採用しています。

基礎科目と外国語科目の主な開講時間帯（グレー色）を設定しています。

時限	月	火	水	木	金
1限		初修外国語実習			初修外国語実習
2限	基礎／英語実習	初修外国語実習		英語演習	初修外国語実習
3限	基礎／英語実習	基礎／英語実習・演習	英語演習	基礎／英語実習	
4限	基礎／英語実習	基礎／英語実習	英語演習	基礎／英語実習	
5限					

※基礎科目・外国語科目は、上表の開講時間帯（グレー色）を中心に主に開設していますが、それ以外の時限にも開設しており、全学教育科目時間割表（別途掲示）を確認してください。

(2) 履修方法の一般的注意について

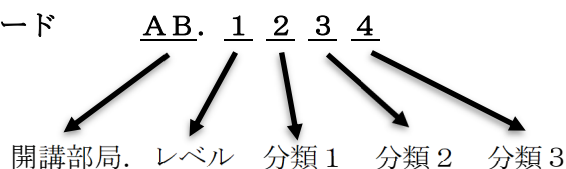
- ① 履修登録していない授業科目は履修できません。
- ② 同一時間帯に2つ以上の授業科目を履修登録できません。
※理工学部では例外的に認める場合があります。授業支援システムで案内しますので確認してください。
- ③ 学科等（学士プログラム）においてクラス指定している授業科目は、原則として指定されたクラス以外の学生は履修できません。
- ④ 授業科目によっては、1つの授業科目に2名以上の教員が分担（オムニバス授業）することがあります。このような場合は全ての教員の授業を履修しなければ単位は修得できません。
- ⑤ 同じ名称の授業科目が複数開講されている科目（例えば「日本国憲法」等）は、異なる教員、異なる学期、曜日、時限であっても1つの授業科目として取り扱います。
同じ名称の授業科目が複数開講されている場合は、クラス指定や別の指示がなければ、1つの授業科目のみを選択履修してください。
- ⑥ 休講、教室変更、試験通知等は、その都度授業支援システム等によって案内しますので、常に確認してください。
- ⑦ その他不明な点は、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

(3) 科目ナンバリングについて

本学は、従来の教養教育・専門教育という枠組みを廃止し、「全学教育」「学部教育」とする“学士の学位を授与する教育課程プログラム”（学士プログラム）単位でカリキュラムを編成しています。

本学の全学教育システムは、学部教育科目と並行して、学部4年間を通じた履修（いわゆるパラレル型履修）とする学位プログラムごとのカリキュラムポリシーに基づく順次性のある体系的な教育課程を編成するため、科目ナンバリングを導入しています。分類コードは次の表（P.18）のとおりです。

YNU ナンバリングコード



レベルコード

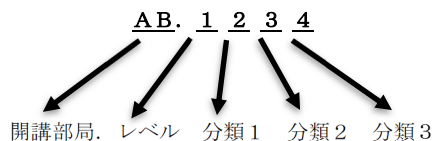
レベルコード	学生が身に付ける能力
1000 番台 初年次・導入科目	◎学部生として、また社会の一員として基本的な知識と教養、英語力を身に付ける（2000・3000 番台を除く）。 ◎学部教育に必要な知識を身に付ける。
2000 番台 基礎・基盤科目	◎学部教育の専門知識を基礎・基盤とした発想力、創造力、英語力を身に付ける。 ◎英語以外の外国語力を身につける。
3000 番台 展開・実践科目	◎学部教育で展開または実践する知識と幅広い教養、語学力、表現力を身に付ける。 ◎専門分野及び関連する他の分野における知識を身に付ける。
4000 番台 発展科目	<修士課程、博士課程前期、専門職大学院課程> 大学院全学教育科目 ◎学士レベルの知識・教養から、修士又は専門職レベルに発展させ、大学院生として必要な知識とプロフェッショナル意識を身に付ける。 ◎文理融合教育やグローバル・ローカル教育を実践し、修士レベルの関連分野の基礎的素養を身に付ける。
5000 番台 自立科目	<修士課程、博士課程前期、専門職大学院課程>
6000 番台 先進科目	<博士課程後期>
9000 番台 その他科目	◎海外留学や語学検定など順次性や体系的な科目履修が必要ない科目、レベル分けが困難な科目、放送大学科目等

分類コード (全学教育科目)

分類1		分類2		分類3	
コード	科目区分	コード	学問分野・領域	コード	使用言語
1	基礎科目 (人文社会系)	1	哲学・倫理学	1	日本語
		2	芸術学	2	英語
		3	文学・言語学	3	日英併用
		4	史学・地理学		
		5	文化人類学	4	その他
		6	法学・政治学		
		7	経済学・経営学		
		8	教育学・社会学		
		9	その他の分野		
1	数学	2	基礎科目 (自然科学系)		
2	物理学				
3	化学				
4	生物学				
5	工学				
6	情報学				
7	環境学				
8	健康・生活科学				
9	その他の分野				
3	英語科目	1	英語実習・TOEFL430		
		2	TOEFL450		
		3	TOEFL500		
		4	TOEFL520		
		5	TOEFL550		
4	初修外国語科目	1	ドイツ語		
		2	フランス語		
		3	イスパニア語		
		4	ロシア語		
		5	中国語		
		7	ギリシア語		
		8	ラテン語		

分類1		分類2		分類3	
コード	科目区分	コード	学問分野・領域	コード	使用言語
5	日本語科目	1	レベル 100	1	日本語
		2	レベル 200	2	英語
		3	レベル 300	3	日英併用
		4	レベル 400		
		5	レベル 500・中級	4	その他
		6	レベル 600・上級		
		7	日本語演習		
6	健康スポーツ	1	演習 A (教育)		
2	演習 B (共通)				
7	グローバル教育科目	1	世界事情科目		
		2	国際交流科目		
		3	海外研修		
8	イノベーション教育科目	1	入門的基幹知 (領域)		
		2	技術革新思考 (領域)		
		3	社会実装戦略 (領域)		
		4	キャリア形成実践知 (領域)		
9	放送大学科目	1	基盤科目		
		2	導入科目		
		3	専門科目		
		4	総合科目		
		5	英語		
		6	初修外国語		

YNU ナンバリングコード



開講部局コード (全学教育科目)

記号	開講部局
GS	教育学部
GE	経済学部
GB	経営学部
GR	理工学部
GU	都市科学部
GL	国際社会科学府
GZ	その他

記号	開講部局
GQ	国際 企画推進部門
GN	戦略 英語教育部
GF	推進 初修外国語教育部
GJ	機構 日本語教育部
GY	YCCS プログラム
GI	情報基盤センター
GK	機器分析評価センター

記号	開講部局
GA	高大接続・全学教育推進センター
GD	ダイバーシティ戦略推進本部
GP	リスク共生社会創造センター
GC	地域実践教育研究センター
GG	成長戦略研究センター
GH	保健管理センター

4. 基礎科目の履修について

基礎科目は、人文社会系と自然科学系の各学問分野における基本的な知識と教養、学部教育に必要な知識を身につける科目です。原則として、科目ナンバリングのレベルコードは 1000 番台（初年次・導入科目）としています。

学部	履修上の注意
教育学部	・日本国憲法（人文社会系科目）は教育職員免許状取得により必修科目
経済学部	・社会科学概論A・B（人文社会系科目）は社会科学に関する広い視野を与えるため履修奨励科目（必修科目ではない） ・微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ（自然科学系科目）は経済学の学修に非常に重要であるため履修奨励科目（必修科目ではない） <LBEEP> ・現代政治（日本）、現代政治（国際）、日本国憲法、現代社会と法、社会の制度を考える（人文社会系）から4単位が選択必修
経営学部	<一般プログラム> ・統計学基礎（自然科学系科目）は必修科目 ・統計データ分析、微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ（自然科学系科目）は経営学の学修に非常に重要であるため履修奨励科目（必修科目ではない） <DSEP> ・経営者から学ぶリーダーシップと経営理論、ベンチャーから学ぶマネジメント（人文社会系科目）、統計学基礎、統計データ分析（自然科学系科目）は必修科目 ・微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ（自然科学系科目）は経営学の学修に非常に重要であるため履修奨励科目（必修科目ではない）
理工学部	・理工学部履修案内及び本冊子に基づき選択履修 <機械工学 EP> ・機械工学と社会とのかかわり合い（自然科学系科目）は必修科目 <材料工学 EP> ・材料学入門（自然科学系科目）は必修科目 <海洋空間のシステムデザイン EP> ・海事技術史（自然科学系科目）、海洋工学と社会（自然科学系科目）は必修科目 <化学・生命系学科> ・物質工学と社会（自然科学系科目）、安全・環境と社会（自然科学系科目）、エネルギー工学序論（自然科学系科目）は準必修科目（履修が義務付けられた科目） <数理科学 EP> ・数理科学概論（自然科学系科目）は必修科目 <物理工学 EP> ・物理工学概論（自然科学系科目）は必修科目 <電子情報システム EP> ・電子情報システム概論（自然科学系科目）は必修科目 <情報工学 EP> ・情報工学概論（自然科学系科目）は必修科目
都市科学部	・都市科学部履修案内及び本冊子に基づき選択履修

(1) ターム科目の履修方法

基礎科目は、原則としてセメスター科目（2単位）として開講されますが、一部の基礎科目（自然科学系）はターム科目（1単位）として開講されます。

全学教育科目のターム科目は、春学期「第1タームと第2タームの連続開講（セット科目）」、秋学期「第4タームと第5タームの連続開講（セット科目）」を奨励していますが単位認定は別々に行われます。

例えば、生物の世界Ⅰ（第1ターム1単位）、生物の世界Ⅱ（第2ターム1単位）の2科目をセットで履修（2ターム連続履修）した場合、ターム科目は各々が独立した授業科目なので単位認定は別々に行われます。

なお、定期試験等の結果により、一方の授業科目が「不可」になる場合があります。再履修する場合は、次年度に当該授業科目のみ再履修してください。

また、第2及び第5ターム科目の履修登録キャンセル期間は、セメスター科目と異なっていますので必ず確認してください。

5. 英語科目の履修について

本学では、全学教育／教養教育の目標である「国際感覚を養い、異文化への理解を深め、十分なコミュニケーション力を高める」ことを実現するため、英語教育は特に重要と位置付けており、英語の4技能「聞く（Listening）、読む（Reading）、話す（Speaking）、書く（Writing）」を学ぶために、すべての学部で1年次の英語実習4科目4単位を必修としています。また、すべての英語科目は、TOEFL レベル別指定クラス編成とし、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）が指定する英語科目を履修します。

卒業に必要な英語科目の履修単位数は、学士プログラムごとに指定しますが、英語科目によっては、履修するために必要な TOEFL スコアが指定されています。（このページの（2）表を参照してください。）

このため、英語科目を6単位履修するには TOEFL-ITP450 点以上のスコアが必要です。同じように英語科目を8単位履修するためには、TOEFL-ITP500 点以上のスコアが必要です。これらは履修するための条件なので、英語演習科目（「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」）を2年次に履修するためには、1年次末の英語統一テストで必要なスコアを獲得しておくことが必要です。また、3年次以降には TOEFL-ITP（学内・不定期実施）等でより高いスコアを獲得することで、大学院進学や卒業後のキャリア形成を目指す「英語演習 2a」「英語演習 2b」といった、より高度の英語演習科目を履修することができます。

（1）英語科目の編成（Semester科目）

英語科目は、「英語実習科目」及び「英語演習科目」に区分して編成しています。

英語実習科目は、一般的な英語の運用能力を向上させる授業内容とし、90分授業を15回（定期試験を除く）履修することにより1単位修得する科目であり、授業時間内での実践的な学修と相応な自宅学習が求められます。英語演習科目は、専門領域の研究や卒業後のキャリアのために必要な英語の運用能力を向上させる授業内容とし、90分授業を15回（定期試験を除く）履修することにより2単位修得する科目であり、授業時間内での演習に加え、授業時間外における多くの学修課題が英語実習科目以上に課されます。

（2）英語科目の履修の流れ

授業科目名 (必要なスコア)	単位	ナンバリング	○必修科目・◇選択科目					履修年次 (科目区分)
			教育	経済	経営	理工	都市	
英語プレゼンテーション	1	1000	○ 必修	○ 必修	○ 必修	○ 必修	○ 必修	1年次から (実習科目)
英語ライティング	1							
自立英語	1							
英語 LR	1							
英語演習 1a (ITP450 点)	2	2000	◇ 自由 選択	◇ 自由 選択	◇ 自由選択 または1 科目以上 選択必修※1	◇ 1科目 以上 選択 必修	◇ 1科目 以上 選択 必修	2年次から (演習科目)
英語演習 1b (ITP500 点)	2							
英語演習 1c (ITP520 点)	2							
英語演習 2a (ITP520 点)	2	3000	◇ 自由 選択	◇ 自由 選択	◇ 自由 選択	◇ 自由 選択※2	◇ 自由 選択	3年次から (演習科目)
英語演習 2b (ITP550 点)	2							
英語実習 2	1	1000	◇ 自由選択 英語演習 1a(ITP450 点)を履修できない学生向け補習科目 (卒業に必要な単位には算入されない)					2年次から (実習科目)

※1 詳細は後述の（6）および経営学部履修案内を確認してください。なお、社会人教育プログラムを除きます。

※2 理工学部では、英語演習 2a 及び英語演習 2b は英語科目の卒業に必要な単位には算入されませんが、全学教育科目の卒業に必要な単位数の合計には算入されます。

(3) 1年次英語実習科目の履修方法

1年次英語科目は、英語実習4科目「自立英語、英語LR (Listening/Reading)、英語プレゼンテーション、英語ライティング (各1単位、合計4単位)」が必修科目です。入学時 (2023年4月5日実施) のTOEFL-ITP プレイスメントテストのスコアに基づき、下表による学生の所属学部/学科等 (学士プログラム) を横断したレベル別指定クラスで編成されます。

1年次英語実習科目の指定クラス開講曜日・時限 (1年次生のみ曜日・時限指定)

時限	月	火	水	木
2限	<IE (春)・LR (秋)> 経済 経営			
3限	<IE (春)・LR (秋)> 理工-機械・材料・海洋系 数物・電子情報系 都市-建築、都市基盤	<P・W (春 or 秋)> 経営 都市-建築、都市基盤		<P・W (春 or 秋)> 教育 理工-機械・材料・海洋系
4限	<IE (春)・LR (秋)> 教育 理工-化学・生命系 都市-都市社会、 環境リスク	<P・W (春 or 秋)> 経済 理工-化学・生命系		<P・W (春 or 秋)> 理工-数物・電子情報系 都市-都市社会、 環境リスク

※IE=自立英語、LR=英語LR、P=英語プレゼンテーション、W=英語ライティング

自立英語・英語LRは、月曜日2限~4限のうち、指定クラスの時限において履修し、自立英語は春semester (春学期) に履修、英語LRは秋semester (秋学期) に履修します。英語LRの単位修得には、秋semester末 (2024年2月9日実施) に英語統一テスト (TOEFL-ITP) を受講し、430点以上のスコア取得が義務付けられます。

英語プレゼンテーション、英語ライティングは、火曜日または木曜日の3限または4限のうち、春semester (春学期) 及び秋semester (秋学期) のそれぞれに当該指定クラスの時限において履修します。

ただし、経営学部社会人教育プログラムは、放送大学科目の代替措置 (4単位) がありますので、経営学務係に相談してください。

(4) 英語統一テスト (TOEFL-ITP) の受講方法

英語統一テストの受験資格は、秋semester (秋学期) に開講される「英語LR」を履修登録したすべての1年次生に与えられます。TOEFL-ITPとは、TOEFL PBT (Paper-Based Test, 677点満点) を使用した団体向けテストのことで、このTOEFL-ITPスコアは公式のTOEFLスコアではありません。

「英語LR」の単位修得には、英語統一テストにおいて430点以上のスコアが義務付けられています。詳細は英語LR授業において説明します。

そのスコアは公式のPBTスコアと同様と考えられており、全世界で実施されているTOEFL-iBT、TOEIC、IELTS等との得点換算表を利用することにより、ある程度正確に自分の英語力を客観的に把握でき、今後の外部検定試験を挑戦するステップとして役立てることができます。

(5) 1年次英語実習科目の再履修方法

1年次英語実習科目の必修4科目「自立英語、英語LR (Listening/Reading)、英語プレゼンテーション、英語ライティング (各1単位、合計4単位)」を履修しますが、1年次の全ての英語科目が指定クラスのため、春学期の履修科目を単位修得できなかった場合、その秋学期の同じ名称の授業科目ではなく、2年次に再履修することになります。

再履修に関する不明な点は、英語教育部 (高大接続・全学教育推進センターS5-2/201室) に遠慮なく相談してください。

(6) 2年次以降の英語演習科目の履修方法

英語演習科目は、2年次以降の履修科目です。履修できるクラスは、入学後に取得したTOEFL-ITPのスコアに応じて決まります。(学外での外部検定試験の得点も申請により利用できます。) 基本は2年次進級までに、入学時のプレイスメントテストと秋セメスター末の英語統一テストとして、合計2回TOEFL-ITPを受験します。加えて希望すれば、TOEFL-ITP学内実施(学内・不定期)も受験できます。

英語演習科目は、過去に取得したTOEFL-ITPの最高得点をもって、履修の可否が決まります。英語演習を履修するには、最低でもTOEFL-ITP450点以上のスコア取得が必要です。英語演習科目を2科目(英語科目全体で8単位)履修する場合は、TOEFL-ITP500点以上のスコア取得が履修条件になります。

したがって、学内で取得したTOEFL-ITP得点がTOEFL-ITP430~449点の学生が、英語演習科目を履修するためには、卒業に必要な単位に算入できない補習科目である「英語実習2(1単位)」の履修、または独学等により、TOEFL-ITP450点以上のスコアを獲得できるよう努力する必要があります。そして、TOEFL-ITP(学内・不定期実施)または学外での外部検定試験の受験によってTOEFL-ITP450点以上のスコアを獲得した場合は、英語教育部でスコアが承認されることにより、英語演習科目の履修ができるようになります。学外での外部検定試験で獲得したスコアについては、学生センター(学務・国際戦略部教育企画課全学教育係)に提出してください。詳細は、別途掲示される資料を参照してください。

英語演習1は2年次以降の選択必修科目(教育学部・経済学部は自由選択科目)で、1年次の英語実習科目の学習に基づき、各自の英語のレベルと興味に応じてクラスを選択して履修します。2単位科目として、相応の自宅学習(週当たり4時間以上)を自主的に行うことが求められます。授業は大きく、英語を用いて内容を学習するクラスと、リスニング/リーディング/スピーキング/ライティング等のスキル養成のクラスとに分かれます。毎学期の授業第1週目に、複数の英語演習クラスのミニ講義を体験したうえで、履修抽選に参加してください。履修抽選には、学年、学部、学科、EP等に応じた優先枠があります。優先枠以外でも抽選に参加することはできますが、当選する確率は低くなります。詳細は、別途掲示される資料を参照してください。

英語演習1は、過去に取得したTOEFL-ITPの最高得点によって、選択できる授業のレベルが指定されます。そのため、履修登録を行う時点の最高得点より上のレベルの科目だけでなく、下のレベルの科目も履修することはできません。

英語演習1の一度目の履修で単位を修得できなかった場合、再履修についても履修登録を行う時点の最高得点に応じて科目を履修します。例えば、「英語演習1a」を再履修する際に、TOEFL-ITP500点のスコアを所有している場合は、「英語演習1b」で再履修を行います。

英語演習2は3年次以降の自由選択科目で、卒業研究、大学院進学、キャリア形成、海外研修帰国後の

英語力維持・向上、等に寄与する目的で提供されます。英語演習 2 では英語演習 1 以上に、自身の専門分野を自ら英語で掘り下げる自律的な学習が求められます。

2 年次英語演習科目の指定クラス開講曜日・時限

時限	月	火	水	木
2 限		【参考】 <経済英語演習>		<英語演習 1> 理工
3 限		<英語演習 1> 理工	<英語演習 1> 経営、理工（春）、 都市 【参考】 <経営英語演習>	
4 限		【参考】 <経済英語演習>	<英語演習 1> 経営、都市 【参考】 <経営英語演習>	

(7) 3 年次以降の英語演習科目の履修方法

3 年次以降の学生を対象とした、英語演習 2 も、過去に取得した TOEFL-ITP の最高得点によって履修の可否が決まりますが、TOEFL-ITP550 点以上のスコアを所有していても、「英語演習 2a」を履修することは可能です。また、「英語演習 2a」「英語演習 2b」どちらもそれぞれを再履修の科目として選択できます。

英語演習科目は獲得したスコアに応じてレベルが指定されます。そのため、履修登録を行う時点で所有しているスコアに合った科目を履修することになります。

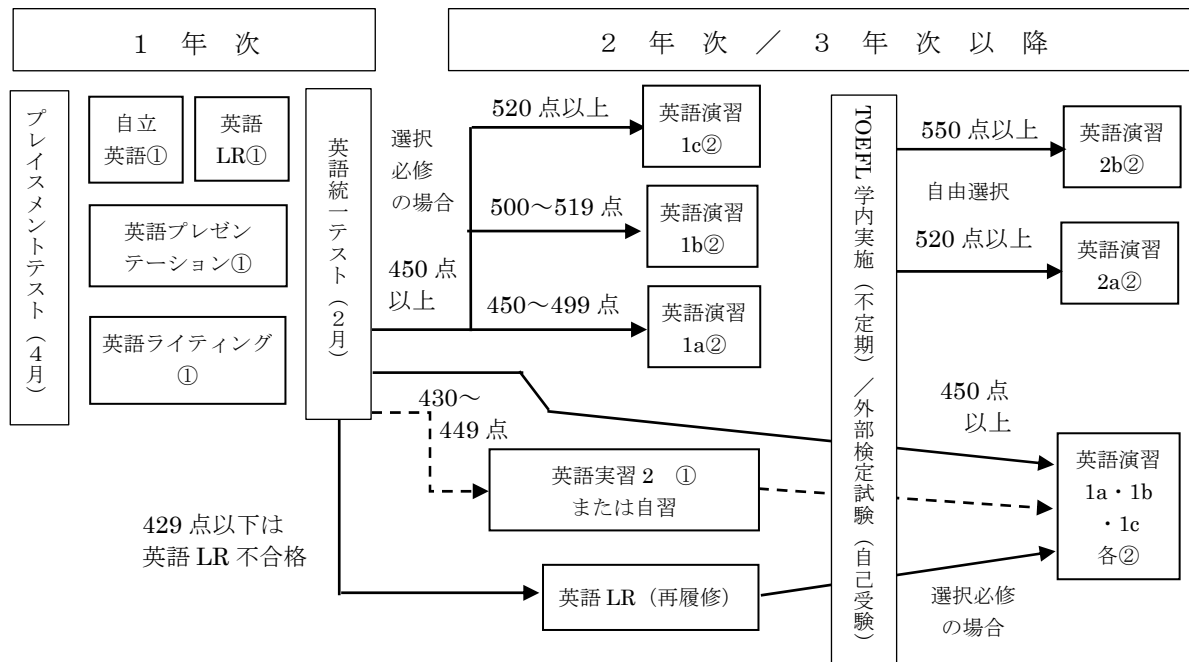
なお、英語実習科目の中で不合格または未履修の科目があっても、TOEFL-ITP のスコアの条件を満たしていれば、英語演習科目を履修することができます。

TOEFL-ITP 以外の外部検定試験の場合は、次のスコア換算表を基準にしてください。

TOEFL-ITP	TOEFL-iBT	TOEIC	IELTS	英検
430	—	410	—	準 2 級
450	45	445	4.5	2 級
500	61	590	5	2 級 A
520	68	645	5.5	—
550	80	730	6	準 1 級
600	100	880	7	1 級

※上表以外の外部検定試験の場合は英語教育部に問い合わせてください。

【英語実習科目から英語演習科目を履修する場合のフロー】 ※○数字は単位数を示す。



※経済学部および経営学部所属の学生は、2年次以降上記フローと異なります。詳細は P.25 経済学部の履修方法、P.26 経営学部の履修方法を確認してください。

※英語実習科目の中で不合格または未履修の科目があっても、TOEFL-ITP のスコアの条件を満たしていれば、英語演習科目を履修することはできます。

【学部ごとの履修フロー】

1. 教育学部

教育学部 英語科目：4単位以上

卒業に必要な英語科目 4 単位に加えて、以下の英語演習科目の履修ができます。

履修年次	必修 4単位
1年次	自立英語 1単位
	英語LR 1単位
	英語プレゼンテーション1単位
	英語ライティング 1単位

これらの科目は自由選択科目として、外国語科目の単位に算入できます。履修を希望する場合は、それぞれ該当するページの履修方法に従ってください。これらの科目の履修を希望する場合は履修期間内に英語教育部の履修相談を受けてください。

履修年次	自由選択科目
2年次	英語演習1a,1b,1c 各2単位 留学支援英語 (p31参照)
3年次	英語演習2a,2b 各2単位

◆2年次以降
「英語演習 1a」(TOEFL 450 点以上)
「英語演習 1b」(TOEFL 500 点以上)
「英語演習 1c」(TOEFL 520 点以上)
「留学支援英語科目」
(TOEFL 500 点以上)

◆3年次以降
「英語演習 2a」(TOEFL 520 点以上)
「英語演習 2b」(TOEFL 550 点以上)

※上記カッコ内の TOEFL スコアは履修条件です。

2. 経済学部

経済学部 英語科目：8単位以上

履修年次	必修 8単位	
1年次	自立英語	1単位
	英語LR	1単位
	英語プレゼンテーション	1単位
	英語ライティング	1単位
2年次	EAP	2単位
	EEB	2単位
	Advanced EAP A	2単位
	Advanced EAP B	2単位
	指定されたクラス 2科目4単位	

経済学部の卒業に必要な英語科目の
8単位については、英語教育部開講の

「自立英語」
「英語 LR」
「英語プレゼンテーション」
「英語ライティング」に加え、
経済学部教育科目の英語演習科目

「English for Academic Purpose(EAP)」
「English for Economics and Business(EEB)」
「Advanced EAP A」
「Advanced EAP B」

履修年次	自由選択科目	
2年次	英語演習1a,1b,1c	各2単位
	留学支援英語 (p31参照)	
3年次	英語演習2a,2b	各2単位

の4科目のうち
指定されたクラスの2科目4単位となります。

経済学部生の卒業に必要な英語8単位の履修方法は、経済学部履修案内で必ず確認してください。

また、卒業に必要な英語科目の8単位に加えて、以下の英語演習科目の履修ができます。

これらの科目は自由選択科目として、外国語科目の単位に算入できます。

(ただし、卒業に必要な英語科目の必修8単位に含めることはできません。)

これらの科目の履修を希望する場合は P.22 の履修方法に従い、履修期間内に英語教育部の履修相談を受け、かつ、経済学務係に必ず申し出てください。

◆2年次以降

- 「英語演習 1a」(履修条件：TOEFL 450 点以上)
- 「英語演習 1b」(履修条件：TOEFL 500 点以上)
- 「英語演習 1c」(履修条件：TOEFL 520 点以上)
- 「留学支援英語科目」(履修条件：TOEFL 500 点以上)

◆3年次以降

- 「英語演習 2a」(履修条件：TOEFL 520 点以上)
- 「英語演習 2b」(履修条件：TOEFL 550 点以上)

3. 経営学部

経営学部 英語科目：8単位以上

履修年次	必修 8単位	
1年次	自立英語	1単位
	英語LR	1単位
	英語プレゼンテーション	1単位
	英語ライティング	1単位
2年次	英語演習1a,1b,1c 各2単位 経営英語演習A,B 各2単位	TOEFLの点数に応じて、 いずれかの組み合わせ 2科目4単位
	◆自由選択科目 留学支援英語（p31参照） の単位取得でも代替可	
3年次	◆自由選択科目 英語演習2a,2b の単位取得でも代替可	

経営学部の履修基準のうち、英語科目 8 単位以上には、英語実習科目 4 科目 4 単位に加え、経営学部教育科目の英語演習科目

「経営英語演習 A」
「経営英語演習 B」が含まれ、

以下と次ページで示す例のように英語演習 2 科目（4 単位）を履修します。

英語演習科目の履修登録は半期 2 単位までですので、注意してください。

経営英語演習 A・B を履修し、不可の成績がついた科目は、次年度以降に再履修を行ってください。

2 年次の学生が英語演習 1a～1c を履修し、不可の成績がついた科目は、次年度以降に再履修を行ってください。

3 年次以降の学生が春学期に英語演習 1a～1c を履修し、不可の成績がついた科目は、同年度秋学期に再履修を行うことができます。（希望する場合は経営学務係に履修登録期間内に申し出てください。）

ただし、秋学期に「経営英語演習 B」と「英語演習 1a～1c」から 2 単位を超えて履修登録することはできません。

履修年次	自由選択科目
2年次	留学支援英語（p31参照）
3年次	英語演習2a,2b 各2単位

なお、以下の科目について選択必修科目として外国語科目の卒業に必要な単位にすることができます。これらの科目は「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」「経営英語演習 A」「経営英語演習 B」として代替できます。

◆2 年次以降

「留学支援英語科目」（履修条件：TOEFL 500 点以上）

◆3 年次以降

「英語演習 2a」（履修条件：TOEFL 520 点以上）

「英語演習 2b」（履修条件：TOEFL 550 点以上）

※「留学支援英語科目」、「英語演習 2a、2b」については、「英語演習科目は半期 2 単位まで」というルール適用外になるため、同学期に「英語演習 1a～1c」「経営英語演習 A,B」と合わせて履修できます。

組み合わせ 例（次ページも参照のこと）

【例 1】春学期に「経営英語演習 A」を履修する学生は、「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」のいずれかを秋学期に履修する。

【例 2】秋学期に「経営英語演習 B」を履修する学生は、「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」のいずれかを春学期に履修する。

【例 3】春学期に「経営英語演習 A」を履修する学生は、秋学期に「経営英語演習 B」を履修する。

※経営学部が開講する英語演習科目の履修方法については、経営学部履修案内で必ず確認してください。

・TOEFL-ITP450 点未満の学生

「経営英語演習 A」及び「経営英語演習 B」

※「経営英語演習 A」と「経営英語演習 B」の両方を履修する場合は、それぞれ別の教員を選択してください。

・TOEFL-ITP450 点以上 500 点未満の学生

「英語演習 1a」及び「経営英語演習 A・B」のいずれか 1 科目

・TOEFL-ITP500 点以上 520 点未満の学生

「英語演習 1b」及び「経営英語演習 A・B」のいずれか 1 科目

・TOEFL-ITP520 点以上の学生

「英語演習 1c」及び「経営英語演習 A・B」のいずれか 1 科目

4. 理工学部

理工学部 英語科目：6単位以上

履修年次	必修 6単位	
1年次	自立英語	1単位
	英語LR	1単位
	英語プレゼンテーション	1単位
	英語ライティング	1単位
2年次	英語演習1a,1b,1c 各2単位 ◆自由選択科目 留学支援英語（p31参照） の単位取得でも代替可	TOEFLの点数に応じて いずれか1科目2単位
3年次	※自由選択科目 英語演習2a,2bでの 代替は不可	

理工学部の卒業に必要な英語科目の 6 単位については、英語教育部開講の英語実習科目である「自立英語」「英語 LR」「英語プレゼンテーション」「英語ライティング」（各 1 単位）を 1 年次に指定クラスの曜日・時限で履修します。

さらに次ページ以降のように「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」（各 2 単位）のいずれかを 2 年次に履修します。

なお、これらの英語演習科目は 2 年次の年度では 2 単位を超えて履修登録できません。

履修年次	自由選択科目
2年次	留学支援英語（p31参照）
3年次	英語演習2a,2b 各2単位

以下の「留学支援英語科目」について、選択必修科目として外国語科目の卒業に必要な単位にすることができます。この科目は「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」として代替できます。

◆2年次以降

「留学支援英語科目」（履修条件：TOEFL 500 点以上）

ただし、3年次以降「英語演習 2a」（履修条件：TOEFL 520 点以上）、「英語演習 2b」（履修条件：TOEFL 550 点以上）は自由選択科目となるため、「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」として代替できません。

【理工学部 英語演習科目の履修方法】

2年次に履修する英語演習科目の開設曜日・時間帯は、各教育プログラム（EP）で指定されています。
 また、TOEFL-ITP のレベルに応じて受講するクラスを希望できますが、希望者が多い場合は抽選となることがあります。抽選は学期毎に行いますので、受講を許可されたクラスを履修登録してください。さらに、2年次の春学期に履修登録した学生は、その可否にかかわらず、2年次の秋学期の抽選に参加できません。
春学期、秋学期ともに抽選に漏れた場合は、英語教育部に申し出てください。
 3年次以降にこれらの英語演習を再履修する場合には、履修する英語演習科目の開設曜日・時間帯の制限はありません。

理工学部における2年次英語演習科目の指定クラス開講曜日・時限

	火曜日・3限	水曜日・3限	木曜日・2限
春 学 期	機械工学 EP<Ame1> 物理工学 EP<Fp1> 電子情報システム EP<Fe1>	材料工学 EP	化学・化学応用 EP<Cb1> バイオ EP 海洋空間のシステムデザイン EP
秋 学 期	数理科学 EP 物理工学 EP<Fp2> 電子情報システム EP<Fe2> 情報工学 EP 春学期に受講資格がなく、秋学期までに受講資格を獲得した以下の EP 所属生 材料工学 EP 物理工学 EP<Fp1> 電子情報システム EP<Fe1>		化学・化学応用 EP<Cb2> 機械工学 EP<Ame2> 春学期に受講資格がなく、秋学期までに受講資格を獲得した以下の EP 所属生 機械工学 EP<Ame1> 海洋空間のシステムデザイン EP バイオ EP 化学・化学応用 EP<Cb1>

- ・ TOEFL-ITP450 点以上 500 点未満の学生
 「英語演習 1a」（2 単位）を春学期、または、秋学期に受講できます。
 この科目は学年を問わず単位修得できるのは、1 クラス 2 単位までに限られます。
- ・ TOEFL-ITP500 点以上 520 点未満の学生
 「英語演習 1b」（2 単位）を春学期、または、秋学期に受講できます。
 2 年次には 2 単位を超えて履修できません。
- ・ TOEFL-ITP520 点以上の学生
 「英語演習 1c」（2 単位）を春学期、または、秋学期に受講できます。
 2 年次には 2 単位を超えて履修できません。
- ・ 英語科目を 6 単位より多く（英語演習を 2 単位より多く）履修する場合
 TOEFL-ITP500 点以上であれば、既に修得した英語演習 1b とは別クラスの英語演習 1b を 3 年次以降で履修できます。
 TOEFL-ITP520 点以上であれば、既に修得した英語演習 1c とは別クラスの英語演習 1c を、または、英語演習 2a を 3 年次以降で履修できます。このうち、TOEFL-ITP550 点以上であれば、英語演習 2b の履修が 3 年次以降で可能になります。

【注 1】 TOEFL-ITP430 点未満の学生

英語 LR の単位修得ができていないので、英語演習科目を受講できません。まず、英語 LR の単位修得が必要です。

【注 2】 TOEFL-ITP450 点未満の学生

TOEFL-ITP450 点未満の学生は、英語演習科目を受講することはできません。このうち、TOEFL-ITP430 点以上 450 点未満の学生は、卒業に必要な単位に算入できない補習科目である「英語実習 2」(1 単位)を履修するか、独学により TOEFL-ITP450 点以上のスコアを獲得する事で、スコアに応じて「英語演習 1a」、「英語演習 1b」または「英語演習 1c」を受講することが可能になります。(春学期にスコア条件を満足できれば、秋学期に英語演習科目の受講が可能になります。)

なお、海洋空間のシステムデザイン EP の履修基準のうち、グローバル教育科目(国際交流科目)を履修し単位を修得した場合、2 単位を上限として英語演習科目の単位として読み替えることができます。履修方法については、理工学部教務係に相談してください。

5. 都市科学部

都市科学部 英語科目：6単位以上

履修年次	必修 6単位	
1年次	自立英語	1単位
	英語LR	1単位
	英語プレゼンテーション	1単位
	英語ライティング	1単位
2年次	英語演習1a,1b,1c 各2単位 ◆自由選択科目 留学支援英語 (p31参照) の単位取得でも代替可	TOEFLの点数に応じて、 いずれか1科目2単位
3年次	◆自由選択科目 英語演習2a,2b の単位取得でも代替可	

都市科学部の履修基準では、英語科目 6 単位以上の履修が必修です。

さらに外国語科目の履修基準を満たすために英語科目を 8 単位履修する場合があります。

英語科目 6 単位または 8 単位を履修するためには、英語実習科目 4 科目 (4 単位) に加え、次ページ以降のとおり

履修年次	自由選択科目
2年次	留学支援英語 (p31参照)
3年次	英語演習2a,2b 各2単位

2 年次以降に英語演習科目を 1 科目 (2 単位) または 2 科目 (4 単位) 履修する必要があります。

なお、以下の科目について選択必修科目として外国語科目の卒業に必要な単位にすることができます。これらの科目は「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」として代替できます。

◆2 年次以降
「留学支援英語科目」(履修条件：TOEFL 500 点以上)

◆3 年次以降
「英語演習 2a」(履修条件：TOEFL 520 点以上)
「英語演習 2b」(履修条件：TOEFL 550 点以上)

【都市科学部の英語科目履修方法（詳細）】

英語演習科目を1科目（2単位）履修する場合

- ・TOEFL-ITP450 点以上 500 点未満の学生
「英語演習 1a」を2年次春学期、または、2年次秋学期に履修します。
- ・TOEFL-ITP500 点以上 520 点未満の学生
「英語演習 1b」を2年次春学期、または、2年次秋学期に履修します。
- ・TOEFL-ITP520 点以上の学生
「英語演習 1c」を2年次春学期、または、2年次秋学期に履修します。

英語演習科目を2科目（4単位）履修する場合

- ・TOEFL-ITP450 点以上 500 点未満の学生
「英語演習 1a」を2年次春学期に履修できますが、2科目を履修するためには、TOEFL-ITPを再度受験し、500点以上のスコアを取得する必要があります。英語演習 1aを2つ履修することはできません。500点以上 520点未満のスコアを取得した場合は「英語演習 1b」、520点以上のスコアを取得した場合は「英語演習 1c」を、スコアを取得した次の学期に履修します。
- ・TOEFL-ITP500 点以上 520 点未満の学生
「英語演習 1b」を2年次春学期、2年次秋学期ともに履修します。
- ・TOEFL-ITP520 点以上の学生
「英語演習 1c」を2年次春学期、2年次秋学期ともに履修します。

【留意事項】都市科学部外国語科目の履修方法について

都市科学部の外国語科目は、P.15の履修基準表に基づき、以下の表のとおり、英語科目及び初修外国語科目を合わせて10単位または12単位以上を履修する必要があります。

	英語科目 必修単位数	初修外国語 必修単位数	選択単位数の履修方法 (いずれかを選択)	外国語科目 合計単位数
都市社会共生学科	実習 4 単位 演習 2 単位	実習 4 単位	英語演習 2 単位 初修外国語演習 2 単位 初修外国語実習 2 単位	12 単位
建築学科 都市基盤学科 環境リスク共生学科	実習 4 単位 演習 2 単位	実習 2 単位	英語演習 2 単位 初修外国語実習 2 単位 (別言語でも可)	10 単位

外国語科目の選択単位数（2単位）は、英語科目と初修外国語科目のいずれかから履修するほか、下記の科目から2単位までを読み替えることができます。読替を行う場合は、都市科学部学務係まで申し出てください。

都市社会共生学科	・学科が指定する全学教育科目のグローバル教育科目（国際交流科目） ・学部教育科目の英語関連科目
建築学科	・学科が指定する全学教育科目のグローバル教育科目（国際交流科目）
都市基盤学科	・学科が指定する全学教育科目のグローバル教育科目（国際交流科目）
環境リスク共生学科	・学科が指定する全学教育科目のグローバル教育科目（国際交流科目）

(8) 留学支援英語科目及び検定英語科目

これら英語科目のほか、第3ターム科目（夏季休業期間）として留学支援英語科目「英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習（2単位）」「TOEFL-iBTスピーキング対策演習（2単位）」が開講されます。履修するためには、TOEFL-ITP500点以上のスコアが必要です。これらの科目は英語演習科目としての取扱いとなりますが、学部によっては選択必修の英語演習科目があるため、履修する場合はそれぞれの学部の履修方法を確認してください。

また、外部検定試験（TOEFL、TOEIC、IELTS等）において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定英語科目があります。

検定英語科目の単位は、外国語科目の卒業に必要な単位には算入されません。ただし、全学教育科目の卒業に必要な単位数の合計には算入されます。また、対象となる資格は、本学入学後に取得したもので、かつ取得後2年以内のものに限ります。なお、複数の外部検定試験のスコアを獲得しても、1科目につき単位認定できるのは1回のみとなります。

また、検定英語科目は、春学期・秋学期の履修登録単位数の上限に含まれません。単位認定を希望する場合は所定の期日までにLMSにて申請書とスコア証明書類を提出してください。（学生自身で履修登録をする必要はありません。学期末に履修登録と成績登録の処理を一括で行います。）

経済学部および経営学部所属の学生は、学部独自の制度がありますので、この検定英語科目の制度は利用できません。学部独自の制度については各学部の履修案内を確認してください。

授業科目名	単位	成績評価	外部検定試験のスコア基準
検定英語 A	1	合格	TOEFL-ITP 550 点以上（英語演習 2b レベル）
検定英語 B	1		TOEFL-ITP 600 点以上（大学院留学レベル）

※ TOEFL-ITP 以外の外部検定試験スコアは前述したスコア換算表により取り扱います。
なお、TOEFL-ITP 600 点以上取得した場合は、検定英語 A および検定英語 B の 2 単位認定となります。

6. 初修外国語科目の履修について

本学では、全学教育／教養教育の目標である「国際感覚を養い、異文化への理解を深め、十分なコミュニケーション力を高める」ことを実現し、世界の多元性や多様性の認識を深め、共生への理解を育むため、異文化理解教育としての初修外国語教育は重要と位置付けています。初修外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、ギリシア語、ラテン語の7言語です。

卒業に必要な初修外国語科目の履修単位は、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）ごとに指定されます。

(1) 初修外国語科目の編成（セメスター科目）

初修外国語科目は、「実習科目」及び「演習科目」に区分して編成されています。

実習科目は、基礎的な知識を修得させる初級レベルの授業内容とし、90分授業を15回（定期試験を除く）履修することにより1単位修得する科目であり、主に授業時間内での実践的な学修が中心となります。

演習科目は、専門領域の研究や卒業後のキャリアのため、より高度の知識・教養を修得させる中級レベルの授業内容とし、90分授業を15回（定期試験を除く）履修することにより2単位修得する科目であり、授業時間内での演習に加え、授業時間外における多くの学修課題が実習科目以上に課されます。

(2) 初修外国語科目の選択方法

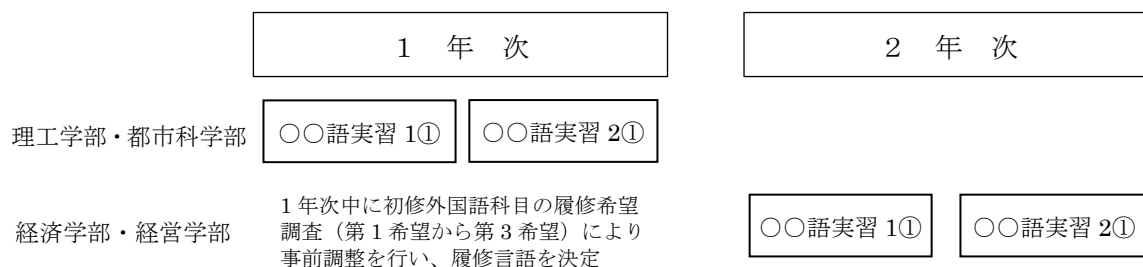
授業科目名 (セメスター科目)	単位	ナンバリング	教育	経済	経営	理工	都市		履修年次 (科目区分)							
							都市社会共生	他の学科								
ドイツ語実習	1	2000	自由 選択	1言語 2単位 以上 選択 必修	1言語 2単位 以上 選択 必修	1言語 2単位 以上 選択 必修	1言語 4単位 以上 選択 必修	1言語 2単位 以上 選択 必修	理工学部 都市科学部 1年次							
フランス語実習	1								経済学部 経営学部 2年次							
スペイン語実習	1								教育学部 2年次から (実習科目)							
ロシア実習	1															
中国語実習	1															
朝鮮語実習 (2017年度以前入学生)	1								自由 選択 ※	自由 選択 ※	自由 選択 ※	自由 選択 ※	自由 選択 ※	自由 選択 ※	自由 選択 ※	1年次から (実習科目)
ギリシア語	1															
ラテン語	1															
演習科目	2	3000	自由選択 各言語の実習科目4単位以上履修しなければ演習科目は原則として履修できません。なお、ギリシア語、ラテン語は演習科目を開講していません。						2～3年次 から (演習科目)							

※経済学部では、ギリシア語、ラテン語は卒業に必要な単位には算入されません。

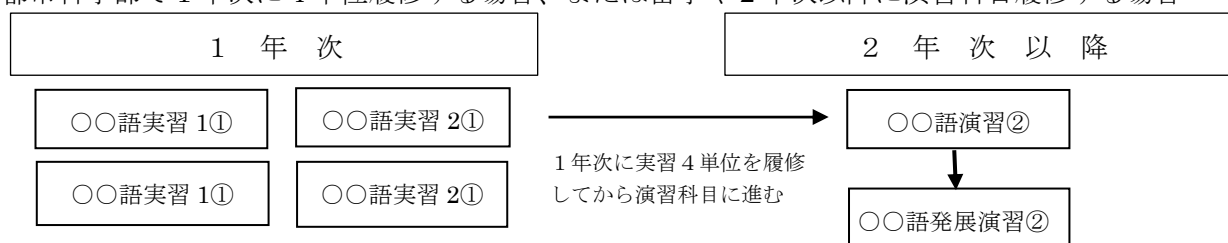
経営学部では、ギリシア語、ラテン語は初修外国語の卒業に必要な単位には算入されませんが、全学教育科目の卒業に必要な単位数の合計には算入されます。

【初修外国語科目を履修する場合のフロー】 ※○数字は単位数を示す。

○一般的な科目履修の場合（1言語2科目2単位の履修ケース）



○都市科学部で1年次に4単位履修する場合、または留学や2年次以降に演習科目履修する場合



※教育学部の所属学生で初修外国語科目を履修希望する場合は、教育学部の履修手引きを確認してください。
 ※実習1（春セメスター開講科目）を履修して単位修得できない場合は、実習2（秋セメスター開講科目）を履修することはできません。
 ※一定の条件を満たす場合は「スピード履修」「スキップ履修」制度があります。

（3）初修外国語実習科目の履修方法

初修外国語実習科目は、言語ごとに「〇〇語実習 1」「〇〇語実習 2」の2科目を開講しています。原則として2年次から履修を開始しますが、理工学部と都市科学部は1年次から履修を開始します。

実習科目は、火曜日および金曜日の1限・2限を中心に開講し、履修年次と曜日・時限を学生の所属学部の学科・EP等（学士プログラム）ごとに次の表で指定しています。

当該指定された曜日・時限に開講する初修外国語の中から、学生自身の学問的な関心等により1言語を選択し、春学期に「実習 1」、秋学期に「実習 2」を履修します。「実習」は、「1」と「2」の二つを合わせて1年間で完結するような授業内容ですので、原則として、春学期・秋学期を通じて、同一曜日・時限、同一教員の授業を履修します。ただし、「実習 1」の単位を修得できなかった場合は、その秋学期の「実習 2」を履修することはできません。

なお、同一の初修外国語について、「実習 1」 + 「実習 2」の【1セット2単位】で履修しなければ、卒業に必要な外国語の単位に算入することができませんので、注意してください。

この「実習 1」と「実習 2」のクラス指定の方法は、履修年次により異なります。

1年次履修指定学部（理工学部・都市科学部）の場合は、入学直後に希望言語の履修希望調査を行い、履修する言語及びクラスを決定します。希望者が多い場合は抽選となります。詳細はオリエンテーションで配付される資料や掲示を確認してください。

2年次履修指定学部（経済学部・経営学部）の場合は、1年次の秋学期（10月を予定）に希望言語の履修希望調査を行い、履修する言語及びクラスを決定します。

なお、初修外国語での語学研修や海外留学を検討している場合、または2年次以降に演習科目の履修を希望している場合は、1年次に実習科目を週2クラス（通年で4単位）履修することができます。また、2年次履修指定学部（経済学部・経営学部）でも、英語等での半年以上の海外留学を検討している場合は、

1年次に実習科目を週1クラス（通年で2単位）でも履修することができます。その際は、学務情報システムによるクラス調整を行ってください。

同一学期で「実習1」（または「実習2」）を2クラス履修する場合、同一教員のクラスを履修することはできません。「実習2」のそれぞれのクラスは春学期に履修した「実習1」と同一教員の同一曜日・時限のクラスを履修してください。（なお、「実習1」を履修した年度とは別の年度に「実習2」を履修する場合はこの限りではありません。）

ギリシア語及びラテン語は、すべての学部で1年次から履修できますが、経済学部と経営学部では修得単位の取り扱いが異なりますので、必ず確認してください。なお、ギリシア語及びラテン語は【1セット2単位】で履修する必要はありません。

1年次履修指定学部（理工学部・都市科学部）

	火曜日	金曜日
1限	化学・生命系学科（全EP） 都市社会共生学科	機械・材料・海洋系学科（海洋空間のシステムデザインEP） 都市科学部 全学科
2限	数物・電子情報系学科（数理科学EP、 電子情報システムEP、情報工学EP）	機械・材料・海洋系学科（機械工学EP、材料工学EP） 数物・電子情報系学科（物理工学EP）

2年次履修指定学部（経済学部・経営学部）

	火曜日	金曜日
1限	経営学部	経済学部
2限		

※教育学部の所属学生で初修外国語を履修希望する場合は、教育学部の履修手引きを確認してください。

【都市科学部の履修方法】

都市科学部では、以下のとおり学科によって履修方法が異なります。

○都市社会共生学科の履修方法

1言語4単位の履修を原則とし、1年次に週2クラス（通年で4単位）履修してください。なお、2言語4単位の履修も可能です。

- 例 4単位を履修する場合の科目の組み合わせ
- 1言語4単位：A語実習1（X教員）+A語実習2（X教員）
A語実習1（Z教員）+A語実習2（Z教員）
 - 2言語4単位：A語実習1（X教員）+A語実習2（X教員）
B語実習1（Y教員）+B語実習2（Y教員）

外国語科目の履修基準を満たすために、さらに2単位履修する場合（初修外国語合計で6単位）は、1年次と同じ言語の演習科目（1科目2単位）か、実習科目（2科目2単位）を履修してください。ただし、実習科目の履修は2言語までとします。（3言語目を履修した場合は、外国語科目の卒業単位としては算入されませんが、全学教育科目の卒業単位数の合計には算入されます。）

なお、演習科目を履修するためには、次の（4）のとおり、あらかじめ同じ言語の実習科目4科目4単位の修得が必要です。

○建築学科、都市基盤学科及び環境リスク共生学科の履修方法

1言語2単位の履修を必修とし、1年次に実習1と実習2の2科目2単位を履修してください。さらに外国語科目の履修基準を満たすために4単位履修する場合は、2つの言語まで履修できます。言語と科目

名の組み合わせ例は、上記の都市社会共生学科の説明を参照してください。1年次に実習科目を週2クラス（通年で4単位）履修することもできます。

【留意事項】都市科学部外国語科目の履修方法について

都市科学部の外国語科目は、P.15の履修基準表に基づき、英語科目及び初修外国語科目を合わせて10単位または12単位以上を履修する必要があります。詳細はP.15を参照してください。

(4) 初修外国語演習科目（ギリシア語、ラテン語を除く）

初修外国語演習科目は、言語ごとに「〇〇語演習」「〇〇語発展演習」の2科目を開設します。「〇〇語演習」を履修するためには、あらかじめ「〇〇語演習」と同一言語の実習科目4科目4単位（「実習1」＋「実習2」のセットを2つ）修得することが必要です。さらに、「〇〇語演習」1科目2単位を修得すれば、同一言語の「〇〇語発展演習」を履修することができます。

演習科目は、授業内容や習熟度等がクラスによって異なりますので、WEBシラバスをよく確認し、自分にとって授業内容とレベルがあったクラスを履修するようにしてください。同一学期に同じ演習科目を複数履修する場合は、別の教員のクラスでなければ履修することはできませんので、注意してください。

(5) 初修外国語のスピード履修

学部教育科目の時間割の関係、あるいは学びたい言語の開講クラスが少ない等の事情で、実習科目4科目の履修が困難な場合、条件を満たせば、「実習科目」を4単位修得していなくても、その言語の「〇〇語演習」を履修することができる「スピード履修」という制度があります。

希望する学生は、所定の期日までに学務・国際戦略部教育企画課全学教育係の授業支援システム(LMS)もしくは窓口に申請してください。

(6) 初修外国語のスキップ履修

本学に入学する前に初修外国語を学習した経験があるなど次の履修条件の一つを満たしている場合、初級レベル「実習科目」を履修せずに、中級レベル「演習科目」の「〇〇語演習」から「スキップ履修」することができます。ただし、スキップ履修した場合であっても、卒業に必要な初修外国語の単位数は変わりません。必要な数だけ演習科目を履修したり、次の(7)検定初修外国語科目を利用したりして、卒業に必要な単位数を満たしてください。

希望する学生は、所定の期日までに学務・国際戦略部教育企画課全学教育係の授業支援システム(LMS)もしくは窓口に申請してください。

種類	最低限必要な単位数	申請条件	レベルチェックテスト実施要否
スピード履修	1セット2単位以上 実習1：1単位以上 実習2：1単位以上	1セット2単位の成績内訳が「秀」又は「優」 例：実習1「秀」＋実習2「秀」 実習1「秀」＋実習2「優」 実習1「優」＋実習2「秀」 実習1「優」＋実習2「優」	言語担当教員の判断により、実施する場合があります
スキップ履修	特になし	以下、①～③のいずれかに該当する学生の場合 ① 当該外国語の初級過程を高校その他の教育機関などで学習したことがあり、証明する文書（成績証明書、履修証明書、検定合格証明書※等）が提出できる学生 ② 大学入試共通テストで当該外国語を受験した学生 ③ 本学の当該外国語教員が実施する初級学力試験（レベルチェックテスト）に合格した学生	①、②については言語担当教員の判断により、実施する場合があります ③はレベルチェックテスト必須

※本学入学後に取得した外部検定試験でもスキップ履修の申請が可能です。

(7) 検定初修外国語科目

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。検定初修外国語科目の単位は、卒業に必要な初修外国語の単位に算入されます。ただし、対象となる資格は、本学入学後に取得したもので、かつ取得後2年以内のものに限ります。

また、検定初修外国語科目は、春学期・秋学期の履修登録単位数の上限に含まれません。単位認定を希望する場合は所定の期日までに LMS にて申請書とスコア証明書類を提出してください。(学生自身で履修登録をする必要はありません。学期末に履修登録と成績登録の処理を一括で行います。)

なお、複数の外部検定試験のスコアを獲得しても、1科目につき単位認定できるのは1回のみとなります。

授業科目名	単位	成績評価	外部検定試験のスコア基準
検定ドイツ語	2	合格	ドイツ語技能検定試験(ドイツ語学文学振興会)4級合格、またはドイツ語検定試験(ゲーテ・インスティトゥート)A2合格
検定フランス語	2		実用フランス語技能検定試験(フランス語教育振興協会)4級合格、または DELF(フランス国民教育省フランス語学習資格)A2合格
検定イスパニア語	2		スペイン語技能検定(スペイン語技能検定委員会)5級合格、またはスペイン語認定証(セルバンテス文化センター東京)DELE A2合格
検定ロシア語	2		ロシア語能力検定試験(ロシア語能力検定委員会/東京ロシア語学院)4級合格
検定中国語	2		中国語検定(HSK)3級合格、または中国語検定試験(日本中国語検定協会)準4級合格
検定朝鮮語	2		ハングル能力検定試験(ハングル能力検定協会)5級合格、または韓国語能力検定韓国教育財団)1級合格

※検定朝鮮語は、2018年度以降入学者も単位認定可能

7. 健康スポーツ科目の履修について

(1) 健康スポーツ科目の編成

学部	授業科目名	単位	学期	履修年次	必修・選択別
教育学部	健康スポーツ演習A	2	春または秋	1	必修科目
全学共通	健康スポーツ演習B	2	春または秋	1~4	選択科目

※教育職員免許状取得希望学生は健康スポーツ演習Aまたは健康スポーツ演習B(2単位)が必修となります。

※健康スポーツ演習Bについて、教育学部の履修年次は2~4年次とします。

(2) 健康スポーツ演習の履修方法

①健康スポーツ演習A

健康スポーツ演習Aは、教育学部1年次学生の必修科目とし、教育職員免許状取得における体育全般についての基礎的な知見の修得を目標とします。

演習科目は複数授業開設されており、その中から1つ授業を選択履修します。詳細については1年次春学期の最初に行われる健康スポーツ演習Aのオリエンテーションの際に説明します。授業オリエ

ンテーションを欠席すると履修できないことがあるので注意してください。

なお、疾病または身体障がい理由として履修が困難な学生は、教育学部健康スポーツ教育担当窓口（教育学部第1研究棟 S3-2/110室）に直接届け出て指示を受けてください。

②健康スポーツ演習 B

健康スポーツ演習 B は、すべての学部生の選択科目（全学共通）として、健全な心身の発育発達の保障と運動習慣の体得を目標とします。

演習科目は、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）で定められた全学教育科目の履修基準に従って履修することになります。

(3) 健康スポーツ演習 B の履修登録手続き

健康スポーツ演習 B は、適正な授業運営と教育効果の向上から履修学生数の制限を行います。履修登録を希望する学生は、各学期開講日から1週間内に開催されるオリエンテーションを受け、第一次登録をします。履修希望学生数が履修定員を超えた場合は抽選を行います。抽選に受かった学生は、やむをえない事情がない限り、必ず履修登録をすることとします。

抽選に外れた場合、もしくは新たな授業を希望する場合、開講2週目に各授業の開講場所において、第二次登録手続きをします。

なお、集中授業のオリエンテーションも開講1週目に行います。日時と場所は次の通りです。

第一次登録	授業開講1週目の開講時限 <体育館>
第二次登録	授業開講2週目の開講時限 <各授業の開講場所>
集中授業登録	授業開講1週目の水曜日 12:15~12:45 <体育館>

※第一次登録後の空き状況は、第二次登録前に授業支援システム（LMS）等に掲示します。

(4) 健康スポーツ演習の履修上の注意

- ① 健康スポーツ演習は、科目の性格上、出席を特に重視しており、規定の出席回数に満たないときは、単位は認定されません。
- ② 再履修する場合は、同一名称の科目を履修すること。ただし、健康スポーツ演習 B においては、種目は問いません。

8. グローバル教育科目の履修について

グローバル教育科目は、世界事情科目、国際交流科目、海外研修の3つの分野を設定しています。

(1) 「世界事情科目」

21世紀グローバル新時代では、世界的な経済発展の軸がシフトしたアジア等新興国の多様な社会制度、文化、宗教や商慣習等の理解が重要であり、これら新興国等の国や地域別の事情を学ぶ新しいジャンルの授業科目です。また、世界事情の理解を深めるための授業科目も含みます。国や地域別の事情を学ぶ科目としては、2023年度は「中国事情Ⅰ、中国事情Ⅱ、台湾事情、韓国事情、インドネシア事情、パラグアイ事情」の6科目を開講します。これとは別に留学生のための授業科目として「日本事情」を開講します。

(2) 「国際交流科目」

グローバル教育科目（国際交流科目）は、都市科学部都市社会共生学科及び国際戦略推進機構がすべての学部を横断して共同運営する「YOKOHAMA Creative-City Studies(YCCS)特別プログラム」の英語による授業科目です。これらの科目は、すべての学部生が履修できます。（都市科学部の学生は扱いが異なる科目があります。詳細は都市科学部の履修案内または掲示を参照してください。）

なお、それぞれの科目に必要とされる英語の能力等、受講条件を確認したい場合は、各授業担当教員に問い合わせてください。

(3) 「海外研修」

国際戦略推進機構が実施する海外（語学）集中キャンプや海外ショートビジット（SV）等において単位が認められる場合の授業科目です。

海外研修については、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）により卒業に必要な単位には算入されない場合がありますので、単位の取扱いについては、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

【グローバルスタディズ副専攻プログラム】

グローバルスタディズ副専攻プログラムは、国際事情の理解を土台とし、インタラクティブな学修活動や海外での実践的な学びを通して、優れた異文化間協働能力を備えることを目指した副専攻プログラムです。

所定の科目を履修し、ショートビジットあるいは海外インターンシップ等の新興国等での海外経験を経ることにより、修了証書が授与されます。

グローバルスタディズ副専攻プログラムについては、学生センター（学務・国際戦略部グローバル推進課国際教育係）に遠慮なく相談してください。

9. イノベーション教育科目の履修について

イノベーション教育科目では、入門的基幹知（領域）、技術革新思考（領域）、社会実装戦略（領域）、キャリア形成実践知（領域）の4つの領域を設定しています。

なお、イノベーション教育科目「キャリア形成実践知（領域）」1000番台の授業科目は、ライフキャリアを考える授業内容であり、1年次での履修を推奨します。

【地域交流人材育成副専攻プログラム】

地域交流人材育成副専攻プログラムは、地域実践教育研究センターがすべての学部を横断して共同運営しており、所定単位を修得すると成績証明書に副専攻名が記載される正規の副専攻プログラムです。地域交流人材育成副専攻プログラム「履修案内」を配付しています。

地域実践教育研究センター（経済学部1号館 N4-1/406室）に遠慮なく相談してください。

【MAB/SDGs 副専攻プログラム】

MAB/SDGs 副専攻プログラムは、知の交流と共有を通じて、地域に密着しつつ、国際的な連携・協働を促進することにより、UNESCOの「人間と生物圏（MAB）計画」を活用して、国内外で持続可能な開発目標（SDGs）に即して活躍できる優秀な人材を育成するための教育プログラムです。

同プログラムが定めた所定単位を修得すると「副専攻修了証書」が発行されるとともに、成績証明書に副専攻名と修了コース名称が記載される正規の副専攻プログラムです。

同プログラムについては、学生センター（学務・国際戦略部グローバル推進課国際教育係）に遠慮なく相談してください。

10. 高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）について

(1) 高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）

高年次履修システム（高度全学教育指定科目制度）とは、学年（年齢）や人種を越えたダイバーシティの視野を広げるとともに、全学部に横断した科目開講により学問の多様性を幅広く修得する制度です。

学生の所属学部が指定する授業科目を3-4年次の高学年において履修することを奨励しています。

(2) 高度全学教育指定科目の履修上の注意

高度全学教育指定科目の履修は、全学教育科目の「基礎科目」「英語演習」「初修外国語演習」「グローバル教育科目」「イノベーション教育科目」および「学部向け大学院全学教育科目」のうち、学生の所属学部が指定した授業科目を3年次以降（学部向け大学院全学教育科目は4年次）に履修した場合に認められます。

なお、経済学部、経営学部、都市科学部の学生は、高度全学教育指定科目の履修が義務づけられていますので、所属学部の履修案内（履修手引）を必ず確認してください。

【YNU リーディング・レクチャ・シリーズ (YNU Leading Lecture Series)】

YNU リーディング・レクチャ・シリーズ (YNU Leading Lecture Series) とは、本学の各分野の若手中堅教員の発案から、学長が企画した授業科目です。これらの科目は、公募により選ばれた本学の専任教員が、大学の特色やビジョンに係わる「文理融合」「グローバル・ローカル」「アジア新時代」や、「共生」「ダイバーシティ」「エネルギー・環境」「サステナビリティ」「倫理」など、社会の諸課題をテーマとして、新しい視点、新しい形態で行う全学教育科目です。

2023年度は、17科目が開講されます。YNU リーディング・レクチャ・シリーズは、独立した科目群ではなく、イノベーション教育科目といった既存の区分の科目として開講されますので、修得した単位数は、それぞれの科目に対応した区分で集計されます。

11. 放送大学科目の履修について

全学教育科目では、単位互換制度による「放送大学科目（特別聴講学生）」を導入しています。

本制度の導入によって、放送大学科目の単位認定試験を本学キャンパス内講義室で実施することが可能です。また、従来のテレビ・ラジオ放送による視聴のほか、インターネットの利用により放送授業全15回の講義がいつでも視聴が可能です。さらには、一定の条件（通信指導問題の提出、単位認定試験期間には帰国）を満たせば、海外においても履修することが可能です。

放送大学科目は、関連する専攻分野を深める、あるいは本学が開講していない専攻分野を学ぶことを希望する学生に、広い関心と興味に応じた履修の機会を提供しています。

(1) 放送大学科目の履修手続き

放送大学科目の履修手続きは、本学が開講する全学教育科目の履修登録期間とは異なり、1年次秋学期からの履修となります。疑問な点や不明なことがあれば、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。入学料は無料ですが、授業料は履修者の負担になります。1科目（2単位）につき、11,000円です。納付の時期については学生センター（学務・国際戦略部教育企画課全学教育係）に問い合わせてください。

【放送大学科目登録時期】	1年次秋学期の履修	2023年7月頃
	2年次春学期の履修	2024年1月頃

(2) 放送大学科目の履修科目とその扱い

放送大学科目の成績評語は「認定」で表し、GP (Grade Point) は与えません。

なお、放送大学科目の外国語科目を履修した場合は、2単位の授業であっても本学では1単位として認定されます。

学部	放送大学科目単位互換制度における単位の扱い
教育学部	卒業に必要な単位には算入されません。
経済学部	卒業に必要な単位には算入されません。
経営学部	卒業に必要な単位には算入されません。 ただし、社会人教育プログラムは、外国語科目必修4単位を含む合計20単位まで全学教育科目の卒業に必要な単位に算入されます。
理工学部	<化学・生命系学科全EP> 基礎科目2単位まで、初修外国語科目2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。 <物理工学EP> 基礎科目8単位まで、初修外国語科目2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。 <電子情報システムEP> 基礎科目、初修外国語科目3科目6単位まで卒業に必要な単位に算入されます。 <情報工学EP> 基礎科目、初修外国語科目2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。 <上記以外のEP> 卒業に必要な単位には算入されません。
都市科学部	<都市社会共生学科> 外国語科目を除き、全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。 <上記以外の学科> 英語科目を除き、初修外国語科目または全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。

1.2. 留学生のための授業科目について

留学生が履修する授業科目として、日本語科目及び日本事情科目があります。授業の履修方法や必修単位数については所属学部の学務担当係に、授業の内容については日本語教育部（国際教育センターS1-3）に問い合わせてください。

(1) 日本語科目

日本語科目は、本学で学修するために必要な日本語力を育成する科目として、基本的な日本語力を育成する「実習科目」と、その実習科目を発展させて社会や研究生活に適した思考力・表現力を育成する「演習科目」があります。

すべての留学生は、入学時に「日本語プレイスメントテスト」を受け、日本語力のレベルにより「中級者」と「上級者」に判定されます。

授業科目名		semester	単位	履修年次	履修上の注意
実習科目	日本語中級A	春	1	1年次	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。中級者は1年次春学期に履修してください。 ※日本語中級Iは第1ターム、日本語中級Jは第2タームに開講します。
	日本語中級B				
	日本語中級C				
	日本語中級D				
	日本語中級E				
	日本語中級F				
	日本語中級I				
	日本語中級J				
	日本語中級K				

実習科目	日本語上級 A 日本語上級 B 日本語上級 F 日本語上級 H 日本語上級 I 日本語上級 J 日本語上級 K 日本語上級 M 日本語上級 O 日本語上級 P	春秋 秋春 春秋 春秋 春秋 春秋 春秋 春秋 春秋 春秋	1	1 年次 ～4 年次	中級者は 1 年次秋学期から履修できます。
演習科目	日本語演習 A 日本語演習 B 日本語演習 C	春秋 秋	2	1 年次 ～4 年次	演習科目は 1 年次秋学期から履修できます。

① 中級者の履修方法

中級者に判定された留学生は、日本語の実習科目のうち、1 年次春学期のみ「日本語中級」を履修することができます。日本語力を高め、本学の学修をスムーズに進めるため、できる限り多くの日本語中級クラスの履修を強く奨励します。1 年次秋学期からは「日本語上級」を履修することができます。「日本語演習」を履修することもできますが、「日本語上級」を履修してからの演習科目の履修を推奨します。「日本語上級」「日本語演習」は 2 年次以降も履修できます。

② 上級者の履修方法

上級者に判定された留学生は、「日本語中級」は履修できません。1 年次春学期から「日本語上級」を履修することができます。1 年次秋学期以降においては「日本語上級」のほか、「日本語演習」も履修することができます。「日本語上級」「日本語演習」は 2 年次以降も履修できます。

③ 演習科目の履修方法

「日本語演習」は 1 年次秋学期以降から履修できます。ただし、「日本語上級」を履修してからの演習科目の履修を奨励します。

④ 日本語科目の評価方法

日本語科目の評価は、小テスト、プレゼンテーション、中間の課題、学期末の課題（試験またはレポート）などを評価基準としています。評価方法は、各授業科目のシラバスで確認してください。

⑤ 外国語科目との代替措置

日本語科目を履修した場合、教育学部・経済学部・経営学部・理工学部は初修外国語科目に、都市科学部は英語科目、初修外国語科目に代替することができます。

(2) 日本事情科目

日本事情科目は、グローバル教育科目（世界事情）において開講します。

科目	学期	単位	履修年次
日本事情 日本の企業システム	春	2	1 年次～4 年次
日本事情 日本の就職事情	秋	2	1 年次～4 年次

※「日本事情 日本の就職事情」は留学生のみが履修可能です。

1 3. 教育職員免許状について

(1) 教育職員免許状の取得

本学では、教育学部、理工学部、都市科学部（環境リスク共生学科）に教職課程を開設し、次の教育職員免許状が取得できます。

学部	学科・課程	教員免許状の種類	免許教科・特別支援教育領域
教育学部	学校教員養成課程	小学校教諭一種	
		中学校教諭一種 中学校教諭二種	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
		高等学校教諭一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、英語
		特別支援学校教諭一種 特別支援学校教諭二種	聴覚障害者（特別支援教育専門領域の学生のみ取得可能）、知的障害者、肢体不自由者、病弱者（一種のみ）
理工学部	機械・材料・海洋系学科	中学校教諭一種	数学、理科
		高等学校教諭一種	数学、理科
	化学・生命系学科	中学校教諭一種	理科
		高等学校教諭一種	理科
	数物・電子情報系学科	中学校教諭一種	数学、理科
		高等学校教諭一種	数学、理科、情報
都市科学部	環境リスク共生学科	中学校教諭一種	理科
		高等学校教諭一種	理科

(2) 教職課程の履修

教育職員免許状は、教職課程において教育職員免許法に定める科目を履修し、教育実習や介護等体験実習、教職実践演習（履修カルテの作成）など、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）が設定する授業科目履修と同時に、教職課程プログラムを4年間継続して体系的に履修する必要があります。

教育職員免許状の取得を希望する学生は、所属学部で開催する教職課程に関するオリエンテーションに必ず出席してください。

(3) 教育職員免許状取得に必要な全学教育科目

教育職員免許状の取得を希望する学生は、所属学部を問わず、次の全学教育科目の単位を修得する必要があります。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 日本国憲法（2単位） ② 健康スポーツ演習Aまたは健康スポーツ演習B（2単位） ③ 英語プレゼンテーション（1単位）及び自立英語（1単位） |
|---|

その他不明な点は、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

V. 全学教育科目の単位の認定

1. 定期試験について

(1) 定期試験

授業科目の単位は、原則として試験を行った上でその成績により授与されます。

全学教育科目の定期試験は、原則としてターム科目は第8週目に、セメスター科目は第16週目に、筆記試験により行います。なお、セメスター科目の第8週目は通常授業となります。

ただし、授業担当教員によっては、筆記試験とレポートを併用する、あるいは定期試験に代えてレポート等の提出や実技・演習等により行うことがあります。この場合は、指定された提出先へ所定の期間内に提出する必要があります。また、中間試験等を実施することもありますので、所属学部の授業支援システム（LMS）等やWEBシラバス等を確認してください。

定期試験期間

春学期	第1ターム 2023年 6月 2日（金）～ 6月 8日（木） 春セメスター／第2ターム 2023年 7月28日（金）～ 8月 4日（金）
秋学期	第4ターム 2023年11月27日（月）～12月 1日（金） 秋セメスター／第5ターム 2024年 2月 1日（木）～ 2月 8日（木）

※第3ターム（夏季休業期間）、第6ターム（春季休業期間）は別に定める。

(2) 定期試験の実施方法・時間割発表

全学教育科目における定期試験実施に係る連絡事項は、定期試験開始の2週間前を目途に「授業支援システム」もしくは「所属学部の掲示板」で伝えます。試験時間割（試験教室）は、通常の授業時間割（講義教室）と異なることがありますので、授業支援システム（LMS）等を必ず確認してください。

また、定期試験以外の試験については、授業中において発表し、特に掲示をしないことがありますので注意してください。

2. 定期試験の受験上の注意について

(1) 不正行為

定期試験において、不正行為（身代わり受験やカンニング等）を行い、学則による懲戒処分を受けた学生は、当該学期に履修した授業科目（当該学期に履修登録したセメスター科目及びターム科目）の単位がすべて無効となります。

(2) 学生証の提示

定期試験を受験する際は、必ず学生証を机上に提示してください。学生証を忘れた学生は受験することはできません。学生証の再発行は申請から7日後です。

忘れる、紛失等した場合は、「仮受験票」等を発行しますので、所属学部の学務担当係に申し出てください。

(3) 試験室の入室等について

指定された試験室には、試験開始時刻前に入室し、原則として他の学生と隣り合わないよう、横に一人分のスペースを空けて、着席してください。また、科目担当教員により座席指定されている場合には、その指示に従って着席してください。

(4) 定期試験時間中の所持品等について

筆記用具及びあらかじめ許可されたもの以外は、机の上に置くことはできません。

定期試験に必要としない所持品（筆箱や下敷きを含む。）等は、かばん等の中に入れ、机の下に置いてください。

特に携帯電話等電子端末は、電源を必ずオフにして、その他の所持品等と同様に、かばん等の中に入れてください。携帯電話等を時計代わりに使用することはできません。

(5) 遅刻者及び退出者の取扱い

遅刻した学生は、特別な事情がある場合に限り、試験開始から 20 分までに入室した場合は受験が認められますが、20 分以上遅刻した学生は受験することができません。

また、試験開始から 30 分以上経過するまでは、試験室から途中退出することは認めていません。

(6) その他の注意事項

試験の解答用紙には、学籍番号及び氏名その他必要な事項を明記してください。これらを記入していない答案は、無効となることがありますので注意してください。

定期試験時間中に、試験監督者の指示及び注意事項を遵守しない学生は、退席を命じることがあります。

これらのほか、定期試験の実施要領や受験上の注意事項について、所属学部の履修案内や授業支援システム（LMS）等を参照してください。

3. 追試験について

(1) 追試験の事由

追試験とは、定期試験を次の（ア）～（エ）に該当する事由により受験できなかった場合は、当該授業科目について追試験の実施を申請することができます。

なお、本学では、再試験（何らかの事情により一度行った定期試験を最初からやり直すこと）は原則として行いません。

（ア）本人の疾病または負傷（医師の診断書を必要とする）

（イ）二親等以内の親族または同居の親族の死亡（事実を確認できる書類を必要とする）

（ウ）交通機関の著しい遅延・運休（事実を証明する書類を必要とする）

（エ）その他、学部長がやむを得ない理由があると認めたとき

(2) 追試験の申請手続き

追試験を申請する場合は、当該定期試験期間終了日の翌日 17 時までに、所属学部の学務担当係まで「追試験申請書」と併せて必要書類を提出してください（E メール申請可、代理人申請可）。

(3) 追試験の実施方法

追試験は、当該定期試験期間終了後、速やかに実施します。

なお、追試験の実施方法は、科目担当教員が指定する方法とします。

Q：大学の定期試験はどのように実施されますか？

A：大学の定期試験は、授業内容に沿った筆記試験を行うものが多いですが、定期試験を実施しない科目や、定期試験の代わりにレポートを提出させる科目があります。また、筆記試験に際し、テキストやノートの持込を許可している科目もあります。

このように、大学の定期試験は、高校の定期試験とは異なり、科目担当教員ごとに多種多様な形式により行われます。定期試験の有無や方法については、WEB シラバスに記載されていますので、最初に確認しておくといでしょう。

Q：大学のレポートはどうやって書けばいいのですか？

A：大学の授業では、レポートが課されることがしばしばあり、それが成績評価の対象になります。レポートは、高校までに書いてきた作文や小論文とは異なりますので、書き方の一定のルールを知り、それに従って書くことが必要です。また、テーマに関係のある文献や資料を十分な時間をかけて情報収集をする必要があります。課題がでたら早めに取り組むようにしましょう。

レポート作成において、他人のアイデア（着想）や意見、見解等をまるで自分が独自に考えたことのように、出版物やインターネット上の情報をそのままコピー&ペースト（コピペ）することは剽窃行為であり、不正行為となります。

文献（図書、論文、雑誌、新聞、信用のあるインターネットサイト情報等）から、他人の意見や見解等を正しく引用するルールを身に付けることが重要となります。

また、レポート作成だけでなく、定期試験において決してカンニング（不正行為）を行わないでください。

4. 授業科目の成績評価について

(1) 成績評価の基準と方法

授業科目の成績は、全学統一の成績評価の基準に基づき、WEB シラバスに記載された成績評価の方法によって総合判定し、成績評語（グレード）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表すとともに、それぞれの授業科目の評語に対して GP（Grade Point）を与えます。ただし、5段階の成績評価が難しい授業科目は「合格・不合格」で表すとともに、GP（Grade Point）を与えません。

授業科目の単位は、「秀・優・良・可・合格」を修得した学生に対して授与されます。

成績評価の基準

評語	成績評価の基準	GP	評価点
秀	履修目標を越えて主体的に学修したと認められるレベルを達成している	4.5	100-90点
優	履修目標を達成している	4	89-80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79-70点
可	到達目標を達成している	2	69-60点
不可	到達目標を達成していない	0	59-0点

※評価点はシラバスに記載する「成績評価の基準」によって科目担当教員が算出している点数であり、必ずしも定期試験等の点数と同じではありません。



(2) GPA 制度と卒業要件

本学は GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPA とは、学生が履修した授業科目の成績評価に対する GP（Grade Point）に当該科目の単位数を掛け、その総和を履修登録科目の総単位数で除して算出されます。

GPA 計算式

$$GPA = \Sigma (GP \times \text{単位数}) / \text{履修登録単位数}$$

本学の卒業要件は、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）が定める卒業に必要な修得すべき単位数以上の修得要件等に加え、GPA2.0 以上を満たす必要があります。例えば、必要以上に授業科目を履修し、単位を修得できない場合は、GPA が下がることとなりますので、無理がなく十分な学修時間が確保できるよう履修計画をたてる必要があります。

なお、学士プログラムによっては、GPA に算定されない授業科目があります。詳細は所属学部の履修

案内（履修手引）を必ず確認してください。

(3) 再履修制度

単位修得した授業科目の再履修は認めていませんが、履修の結果「不可」「不合格」の成績である場合には再履修が認められます。再履修した場合の成績は、再履修後の成績に置き換えられます。

科目区分	再履修科目
基礎科目（人文社会系）	同一名称の科目を履修すること。 ただし、同一名称の科目が開講されていない場合、同一科目区分（人文社会系・自然科学系）の未修得科目の中から自由を選択。
基礎科目（自然科学系）	
外国語科目（英語・初修外国語）	《共通事項》再履修時は、不可だった際と異なる担当教員のクラスを履修しても差し支えない。 【英語実習科目】【初修外国語科目】 同一名称の科目を履修すること。 【英語実習 2LR, 英語実習 2SW(～2020 開講)】 英語実習 2 を履修すること。 【英語演習 1】 「英語演習 1a」「英語演習 1b」「英語演習 1c」から TOEFL-ITP スコアに応じて選択。詳細は P.22 を確認すること。 【英語演習 2】 「英語演習 2a」「英語演習 2b」から自由を選択。
外国語科目（日本語）	同一名称の科目を履修すること。 ただし、同一名称の科目が開講されていない場合、同一科目区分（日本語科目）の未修得科目の中から自由を選択。 プレイスメントテストで日本語中級と判定された者が 1 年次春学期に「日本語中級」の科目が不合格となった場合には、代わりに「日本語上級」から 1 科目を履修する。
健康スポーツ科目	同一名称の科目を履修すること。ただし、健康スポーツ演習 B においては、種目は問いません。
グローバル教育科目	同一名称の科目を履修すること。 ただし、同一名称の科目が開講されていない場合、同一科目区分（グローバル教育科目・イノベーション教育科目）の未修得科目の中から自由を選択。
イノベーション教育科目	

(4) 成績の自己管理

卒業するまでの学業成績、修得単位数と GPA は、学務情報システム及び YNU 学生ポートフォリオにより、成績を正確に把握してください。

成績の自己管理を怠っていると、卒業に必要な修得すべき単位数や GPA の修得状況の勘違い等により、卒業できない事態を招きかねませんので十分に確認してください。

(5) 成績に関する問い合わせ

全学教育科目の成績に関する問い合わせは、それぞれの責任開講部局ごとに成績確認期間が設けられます。詳細は各学部・教育企画課全学教育係の授業支援システム等を確認してください。なお、成績に関する問い合わせをする際は、個別成績表を必ず持参してください。

Q：GPAは何を目的に導入しているのですか？

A：本学は2003年度入学生からGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPAは、欧米の大学で用いられ始め、今日では発展途上国を含め世界各国に広がっている国際的な成績評価システムです。日本では約8割（634）の大学で導入されています（2015年度時点で85%、文科省調べ）。学生のみなさんにとっての利点は、「YNU学生ポートフォリオ」とあわせて利用することにより、自分自身で学修成果を把握することが容易になることです。所属学部生のGPA成績分布図をみることができますので、あなた自身の位置を確認して、「学修意欲の向上」に是非役立ててください。またほとんどの海外の大学において、GPAは留学生を受け入れる際に必要な情報となっており、みなさんの海外留学の促進にも、役立っています。

所属学部の教員やスタッフも、みなさんの学修状況を数値的に把握することで、教育指導の向上を図っています。たとえば学年毎の成績最優秀者の選考ではGPAを重視していますので、この点でも勉学・研究の励みの1つとして活用してください。

Q：成績の自己管理はどうやればいいのですか？

A：修得した成績と単位は、学生自身で正確に管理しなければなりません。

学生のみなさんには、所属学部の学務担当係から「全学教育科目が2単位足りないから、今年修得しないと卒業できません」と4年次に連絡することはありません。

学業成績、修得単位数とGPAは、「YNU学生ポートフォリオ」により常に正確に把握し、次の Semester（ターム）に履修する授業科目を学生自身が決定しなければなりません。もし、単位修得の状況について、少しでも不安があるときは、分からない事柄をよく整理して、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

VI. 学外や海外における授業科目の履修等

1. 修得単位の認定について

(1) 修得単位の認定とは

他大学や大学以外の教育機関等から修得した単位は、所属学部で認定することで、本学における修得単位として認定する制度です。

本制度を利用することにより、関連する専攻分野を深める、あるいは本学にない専攻分野を学ぶなど、学生の幅広い関心と興味に応じた履修の機会が広がります。

(2) 修得単位の認定単位について

修得単位の認定科目は、成績評語は「認定」で表し、GP (Grade Point) は与えません。

2. 横浜市内大学間単位互換制度の履修について

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある 12 の国公立大学が単位互換協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に無料で履修できる制度です。所属学部での承認に基づき、本学における修得単位として認定されます。

本学が他大学履修できる大学は、神奈川大学、関東学院大学、國學院大学、鶴見大学、桐蔭横浜大学、東京都市大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、明治学院大学、横浜商科大学、横浜市立大学の 11 大学です。

横浜市内大学間単位互換制度で履修できる授業科目、修得できる単位数は所属学部により異なります。事前に所属学部の学務担当係または学生センター（学務・国際戦略部教育企画課全学教育係）に問い合わせてください。

3. 放送大学単位互換制度（特別聴講学生）について

本学では、放送大学との単位互換協定に基づき、本学の学生が指定された単位互換科目を放送大学の「特別聴講学生」として履修した場合に、本学で修得したとみなし、認定する制度です。

履修の手続きなどは、P.39 を参照してください。

4. 派遣留学先の授業科目の認定について

本学は、外国の大学等教育機関と学術交流協定を締結し、学生交流を推進しています。本学の派遣留学生となり、交流協定大学での授業履修により単位を修得した場合は、所属学部の承認に基づき、本学における修得単位として認定されます。

派遣留学により履修できる授業科目、修得できる単位数は所属学部により異なります。事前に所属学部の学務担当係に問い合わせてください。

VII. YNU 学生ポートフォリオについて

学務情報システムには、皆さんが自分の学修成果を可視化するツールとして「YNU 学生ポートフォリオ」があります。YNU 学生ポートフォリオは、成績や学修成果（講義からの学び、日々の気づきの記録）などを入れておくことができるWEB 上の自分専用ファイルで、学業の改善や就職活動に活用できます。詳細は冊子「YNUリテラシー：アカデミック・リテラシー編」、または学務情報システムのトップページにある説明(PDF版)を参照してください。

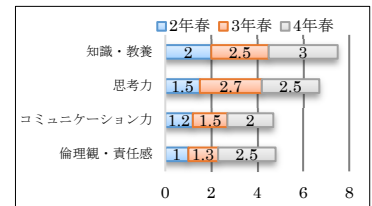
(1) 履修登録前に学生プロフィールを入力する

毎学期、学期が始まったら、第1週目に学務情報システムから履修登録画面にアクセスし、学生プロフィールの入力を済ませてください。履修登録画面にアクセスすると、自動的にYNU 学生ポートフォリオの「学生プロフィール」画面が開きます。入力が完了しないと、履修登録画面に進みません。学生プロフィールの入力には1時間前後必要ですので、履修する科目を決める前に、あらかじめ学生プロフィールの入力を完了しておき、履修科目が決まったら、後日改めて履修登録画面にアクセスし履修登録するようにしてください。

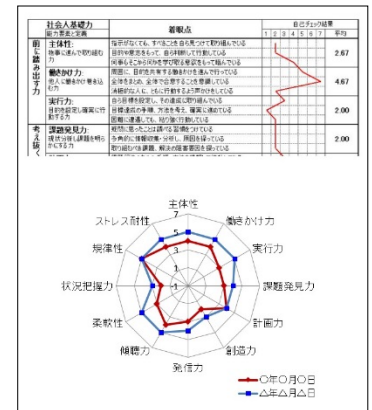
新入生の春学期に入力する項目は、緊急連絡先、高校時代の学修・生活行動（チェックシート）、入学時に考えたこと（振り返りシート）の3つです。これらの入力内容はYNU 学生ポートフォリオに蓄積されますので、上級生になってから振り返って読み直し、あなたの成長の軌跡や立ち位置を確認するのに役立ちます。

(2) 学生ポートフォリオの主要機能

学務情報システム>ポートフォリオ>学士力チェック：2年次以降、春学期の学生プロフィールには学士力の自己チェックがあります。本学のディプロマ・ポリシーにある「学修成果の目標」の《4つの実践的「知」》に基づき、成長度合いの自己チェック結果が表示されます。履修や学修計画の見直しに活用できます。



学務情報システム>ポートフォリオ>就業力チェック：1年次の秋学期以降、秋学期の学生プロフィールには就業力自己チェックがあります。論理的思考力、課題解決力、交渉力、協調性など、どんな職業に就いても共通に必要なとされる基礎的・汎用的スキルの自己チェック結果が表示されます。強みを伸ばし、弱みを改善して、自己の成長の指標として活用してください。

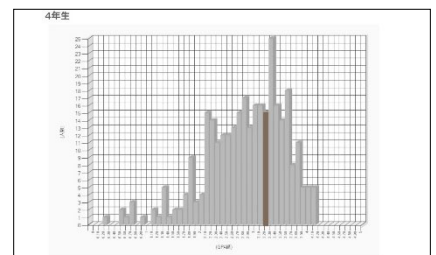


学務情報システム>ポートフォリオ>振り返りシート：学業や学生生活からの学びを記録し、あなた自身で学業や学生生活、将来を構想するためのページです。学士力や就業力の自己チェック結果のグラフや、次項にある過去の履修科目や成績などを参照しながら記入してください。これらの記録は、就職活動の際にはエントリーシート作成等にも活用できます。

(3) 学生ポートフォリオに関連する機能

学務情報システム>履修・成績情報>成績統計：自分のGPAと共に学部全体のGPA分布図を確認できます。

学務情報システム>履修・成績情報>各種語学試験結果：学内で行われるTOEFL-ITPテストの結果を確認できます。



VIII. 2023 年度開講全学教育科目一覧

開講科目に関する最新の情報や変更点は授業支援システム (LMS) 等に掲示されますので、必ず確認してください。開講部局・対象学部の略称名、については、P.18 の開講部局コードと P.57 の注釈にて参照してください。備考については P.58 の表を参照してください。

(1) 基礎科目 (人文社会系)

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9101101	教育	GS.1181	春	月	3	教育学(教育と人間)	藤井 佳世	2	【共通】	1~4	
9101102	教育	GS.1181	春	月	4	教育学(教育と人間)	矢野 泉	2	【共通】	1~4	
9101103	教育	GS.1181	秋	月	2	教育学(教育と人間)	新谷 康浩	2	【共通】	1~4	
9101104	教育	GS.1181	秋	木	4	教育学(教育と人間)	橘高 佳恵	2	【共通】	1~4	
9101105	教育	GS.1181	秋	月	3	心理学A	高橋 幸子	2	【共通】	1~4	
9101106	教育	GS.1181	春	月	4	戦争文化論	白取 道博	2	【共通】	1~4	
9101107	教育	GS.1131	春	火	3	中国の古典文学	高芝 麻子	2	【共通】	1~4	
9101108	教育	GS.1141	春	木	3	日本前近代史	多和田 雅保	2	【共通】	1~4	
9101109	教育	GS.1131	春	月	2	日本の近代文学	一柳 廣孝	2	教育	1~4	
9101110	教育	GS.1131	春	木	3	日本の言語	古田 恵美子	2	【共通】	1~4	
9101111	教育	GS.1161	春	火	4	日本国憲法	米山 忠寛	2	【共通】	1~4	必1
9101112	教育	GS.1161	秋	火	4	日本国憲法	米山 忠寛	2	【共通】	1~4	必1
9101113	教育	GS.1121	秋	木	4	音楽と自然	島田 広	2	【共通】	1~4	
9101114	教育	GS.1121	春	月	4	色彩論	渡辺 邦夫	2	【共通】	1~4	地域
9101115	教育	GS.1141	春	木	3	ヨーロッパ近現代史	棚橋 信明	2	【共通】	1~4	
9101116	教育	GS.1181	秋	木	4	現代社会論	片岡 浩二	2	【共通】	1~4	
9101117	教育	GS.1121	春	火	3	美術の見かた	小池 研二	2	【共通】	1~4	
9101118	教育	GS.1181	春	木	4	心理学史	鈴木 朋子	2	【共通】	1~4	
9101119	教育	GS.1121	秋	火	3	鍵盤楽器の名曲	森野 かおり	2	【共通】	1~4	
9101120	教育	GS.1181	秋	木	4	学校教育最前線	長沼 武志, 小松 典子, 柴 秀之, 青木 弘, 榎田 京子	2	【共通】	1~4	
9101121	教育	GS.1181	春	不定期		学外活動(教育ボランティア)	鈴木 俊彰	2	【共通】	1~4	重1
9101122	教育	GS.1181	秋	不定期		学外活動(教育ボランティア)	鈴木 俊彰	2	【共通】	1~4	重1
9101123	教育	GS.1181	春	火	3	特別支援教育入門	雁丸 新一・他	2	【共通】	1~4	重2
9101124	教育	GS.1181	秋	火	3	特別支援教育入門	軍司 敦子・他	2	【共通】	1~4	重2
9101125	教育	GS.1181	秋	月	2	ESD(持続可能な開発のための教育)入門	松葉口 玲子	2	【共通】	1~4	
9101126	教育	GS.1181	秋	木	3	家族生活と法	小沢 奈々	2	【共通】	1~4	
9101127	教育	GS.1181	春	火	4	学校教育と子どもの発達・教師の成長	日本 健弘, 名取 宗彦, 藤原 寿幸, 木原 裕二, 中戸川 伸一	2	【共通】	1~4	
9101128	教育	GS.1181	秋	月	4	広くて深いカリキュラム(教育課程)論	金馬 国晴	2	教・営・理・都	1~4	
9101129	教育	GS.1121	秋	木	4	歌声研究—比較と実践—	伊藤 裕来	2	【共通】	1~4	
9101130	教育	GS.1121	春	木	3	絵画基礎表現	河内 啓成	2	【共通】	1~4	
9101131	教育	GS.1181	春	月	3	日本語教育から広がる世界	橋本 ゆかり	2	【共通】	1~4	
9101132	教育	GS.1181	秋	月	4	ジェンダーと教育	堀内 かおる	2	【共通】	1~4	
9101133	教育	GS.1181	秋	木	3	教育から見たSDGsと共生社会	後藤 隆章	2	【共通】	1~4	
9101134	教育	GS.1181	秋	火	4	これまでの学校教育・これからの学校教育	石塚 幸野, 中 隆一, 松原 雅俊, 水木 尚光, 村上 唯斗	2	【共通】	1~4	
9101135	教育	GS.1181	春	集中		多文化共生のための教科横断STEAM教育	橋本 ゆかり・他	2	【共通】	3~4	
9101136	教育	GS.1121	春	月	2	歌の魅力	河野 克典	2	【共通】	1~4	
9101137	教育	GS.1191	春	月	4	学習の科学	鈴木 雅之	2	【共通】	1~4	
9101201	経済	GE.1171	春	月	3	現代の経済A	大濱 匠一	2	教・営・理・都	1~4	
9101202	経済	GE.1171	春	月	4	現代の経済A	鐘 嘉許	2	教・営・理・都	1~4	
9101203	経済	GE.1171	秋	木	4	現代の経済B	亀卦川 芽以	2	教・営・理・都	1~4	
9101204	経済	GE.1171	秋	木	1	現代の経済B	丹後 健人	2	教・営・理・都	1~4	
9101205	経済	GE.1161	秋	木	4	現代政治(国際)	川名 晋史	2	【共通】	1~4	
9101206	経済	GE.1161	秋	火	3	現代政治(日本)	内田 智	2	【共通】	1~4	
9101207	経済	GE.1171	秋	月	4	社会科学の方法	薩木 達也	2	【共通】	1~4	
9101208	経済	GE.1171	秋	月	3	社会科学の歴史	薩木 達也	2	【共通】	1~4	
9101209	経済	GE.1171	春	月	4	社会科学概論A	吉本 惣一	2	【共通】	1~4	
9101210	経済	GE.1171	春	月	2	社会科学概論B	吉本 惣一	2	【共通】	1~4	
9101211	経済	GE.1141	秋	火	2	地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	志村 真紀・池島 祥文・伊集 守直	2	教・済・営・理	1~4	地域
9101212	経済	GE.1171	春	月	2	経済学の諸課題Ⅰ	出口 雄大	2	【共通】	1~4	
9101213	経済	GE.1171	秋	月	2	経済学の諸課題Ⅱ	藤生 源子	2	【共通】	1~4	
9101214	経済	GE.1171	春	月	5	デジタルトランスフォーメーション(DX)と社会	山崎 圭一	2	【共通】	1~4	

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9101301	経営	GB.1171	春	火	5	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	井上 徹・他	2	【共通】	1~4	必2
9101302	経営	GB.1171	秋	火	5	ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 徹・他	2	【共通】	1~4	地域、必2
9101303	経営	GB.1171	秋	木	3	現代の物流経営	倉田 久	2	【共通】	1~4	地域
9101304	経営	GB.1171	春	金	2	現代の社会と会計	木村 晃久	2	教・済・理・都	1~4	
9101305	経営	GB.1121	春	月	5	美術と社会	森山 緑	2	【共通】	1~4	
9101306	経営	GB.1141	秋	月	4	歴史	穴山 朝子	2	【共通】	1~4	
9101391	経営	GB.1131	春	金	6	国語・国文学Ⅰ	伊藤 高雄	2	【共通】	1~4	
9101392	経営	GB.1131	秋	金	6	国語・国文学Ⅱ	伊藤 高雄	2	【共通】	1~4	
9101393	経営	GB.1171	春	水	7	経済Ⅰ	中田 大悟	2	【共通】	1~4	
9101394	経営	GB.1171	秋	水	7	経済Ⅱ	中田 大悟	2	【共通】	1~4	
9101401	国社	GL.1161	春	金	4	日本国憲法	小久保 智淳	2	【共通】	1~4	必1
9101402	国社	GL.1161	秋	金	4	日本国憲法	小久保 智淳	2	【共通】	1~4	必1
9101403	国社	GL.1161	春	火	3	法学概論	竹内 明世	2	【共通】	1~4	
9101404	国社	GL.1161	春	月	2	現代社会と法	金子 章	2	【共通】	1~4	
9101405	国社	GL.1161	秋	木	3	社会の制度を考える	齋野 彦弥	2	【共通】	1~4	
9101406	国社	GL.1161	春	月	3	行政のしくみと法	友岡 史仁	2	【共通】	1~4	
9101601	都市	GU.1151	春	木	3	文化人類学の考え方	松本 尚之	2	【共通】	1~4	
9101602	都市	GU.1181	春	月	2	人と動物の関係学	安藤 孝敏	2	【共通】	1~4	
9101603	都市	GU.1122	春	火	2	Cinema	カルバントラ, ファビアン	2	教・済・営・理	1~4	
9101604	都市	GU.1161	春	水	4	社会分析のための統計基礎	中島 有希大	2	【共通】	1~4	
9101605	都市	GU.1111	春	木	3	論理の哲学	松本 展明	2	【共通】	1~4	
9101606	都市	GU.1111	秋	木	4	宗教と社会	江川 純一	2	【共通】	1~4	
9101607	都市	GU.1111	秋	水	3	アジアの社会と思想	関 東 暉	2	【共通】	1~4	
9101608	都市	GU.1121	秋	火	3	近現代芸術論	樽沼 範久	2	【共通】	1~4	
9101609	都市	GU.1121	春	金	3	超越芸術論	佐々木 匠	2	【共通】	1~4	
9101610	都市	GU.1121	秋	火	5	表象文化論	瀧 健太郎	2	【共通】	1~4	
9101611	都市	GU.1141	春	木	3	韓国朝鮮語と韓国朝鮮の歴史	辻 大和	2	【共通】	1~4	
9101701	国際	GJ.1141	秋	月	3	国際理解 日本語をめぐる国際交流史	小川 誉子美	2	【共通】	1~4	
9101702	国際	GJ.1131	秋	火	3	国際理解 国際交流における日本語の役割	半沢 千絵美・范 一楠	2	【共通】	1~4	
9101703	国際	GJ.1131	春	月	3	日韓理解論1	金 庚昆	2	【共通】	1~4	
9101704	国際	GF.1141	春	木	3	古代ギリシアの神話と歴史	大塚 英樹	2	【共通】	1~4	
9101705	国際	GF.1141	秋	木	4	古代ローマの伝説と歴史	大塚 英樹	2	【共通】	1~4	
9101801	高大セ	GA.1141	春	木	4	横浜学--地域の再発見--	安野 舞子	2	【共通】	1~4	地域
9101802	高大セ	GA.1181	秋	木	4	人と動物の幸せな共生を考える	安野 舞子	2	【共通】	1~4	
9101803	高大セ(LLS)	GA.1111	第1	火	3	明日のための東洋思想入門Ⅰ	于 臣	1	【共通】	1~4	
9101804	高大セ(LLS)	GA.1111	第2	火	3	明日のための東洋思想入門Ⅱ	于 臣	1	【共通】	1~4	
9101805	高大セ(LLS)	GA.1161	秋	水	1	安全・リスクと法	石崎 由希子・笹岡 愛美	1	【共通】	1~4	
9101806	リスクセ	GP.1181	秋	金	5	危機管理学	澁谷 忠弘	2	【共通】	1~4	
9101807	成長セ	GG.1171	春	火	4	アントレプレナー入門	為近 恵美	2	【共通】	1~4	
9101808	成長セ	GG.1171	秋	月	3	実践新商品企画	湯沢 雅人・為近 恵美	2	【共通】	1~4	
9101809	成長セ	GG.1171	春	火	3	経営者の役割と従業員の役割	湯沢 雅人・為近 恵美	2	【共通】	1~4	
9101810	成長セ	GG.1161	春	月	3	神奈川のみらい	為近 恵美・望月 雅之	2	【共通】	1~4	地域
9101811	成長セ	GG.1171	秋	木	2	アート・マネジメント	永澤 桂	2	【共通】	1~4	地域

(2) 基礎科目 (自然科学系)

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9102101	教育	GS.1281	秋	火	4	衣生活の科学	藤本 弥生	2	【共通】	1~4	
9102102	教育	GS.1281	春	木	4	おいしさの科学	杉山 久仁子	2	【共通】	1~4	
9102103	教育	GS.1271	春	木	4	気象学入門	小玉 知央	2	【共通】	1~4	
9102104	教育	GS.1211	春	月	3	線形代数学入門	茨木 貴徳	2	教・済・営・社	1~4	
9102105	教育	GS.1281	春	火	4	居住環境論	佐桑 あずさ	2	【共通】	1~4	
9102106	教育	GS.1281	春	火	3	食育	大村 恵利・杉山 久仁子	2	【共通】	1~4	
9102107	教育	GS.1211	秋	火	3	JASPIによるデータ分析	山本 光	2	【共通】	1~4	
9102108	教育	GS.1211	秋	火	4	小学校プログラミング教育	山本 光	2	【共通】	1~4	
9102109	教育	GS.1291	春	木	3	オリンピック・パラリンピックから考えるダイバーシティ	泉 真由子・高野 陽介	2	【共通】	1~4	
9102110	教育	GS.1221	秋	月	3	日常の中の物理	平島 由美子	2	教・済・営	1~4	
9102111	教育	GS.1231	秋	火	4	くらしの化学	古茂田 朋恵	2	【共通】	1~4	
9102112	教育	GS.1251	春	月	3	身近な電気と機械	坂本 智	2	【共通】	1~4	
9102301	経営	GB.1211	春	金	3	コンピューターで学ぶ統計学A	千島 昭宏	2	【共通】	1~4	
9102302	経営	GB.1211	秋	金	3	コンピューターで学ぶ統計学B	千島 昭宏	2	【共通】	1~4	
9102303	経営	GB.1231	秋	月	2	化学	矢ヶ部 重隆	2	教・済・営・社	1~4	
9102304	経営	GB.1211	春	火	3	統計学のための基礎数学	坂原 樹麗	2	教・済・営・社	1~4	
9102305	経営	GB.1211	春	木	3	統計学基礎	松井 暉	2	教・済・営・社	1~4	必3
9102306	経営	GB.1211	秋	火	2	統計データ分析	本橋 永至	2	教・済・営・社	1~4	必2
9102307	経営	GB.2211	春	月	4	理工学のための統計学 I	辻 裕之	2	理・都	2~4	必4
9102308	経営	GB.2211	秋	月	4	理工学のための統計学 II	辻 裕之	2	理・都	2~4	必4
9102391	経営	GB.1211	春	木	6	数学 I	鈴木 香織	2	済・営	1~4	重3
9102392	経営	GB.1211	秋	木	6	数学 II	鈴木 香織	2	済・営	1~4	重4
9102501	理工	GR.1271	春	火	3	エネルギーと環境	大槻 貴司・辻 隆男	2	理工	1~4	地域
9102502	理工	GR.1271	春	木	3	エネルギーと環境	大槻 貴司・辻 隆男	2	教・済・営・都	1~4	地域
9102503	理工	GR.1271	春	木	3	安全・環境と社会	澁谷 忠弘・他	2	【共通】	1~4	地域、必5
9102504	理工	GR.1271	秋	木	4	応用気象学	宮本 佳明	2	【共通】	1~4	
9102505	理工	GR.1231	春	火	2	化学の世界A(物質観としての化学)	竹蔵 絢子	2	教・済・営・社	1~4	
9102506	理工	GR.1231	春	月	3	化学の世界B(生活の化学)	鶴川 彰人	2	教・済・営・社	1~4	
9102507	理工	GR.1231	秋	月	2	化学の世界C(環境の化学)	真名垣 聡	2	教・済・営・社	1~4	
9102508	理工	GR.1231	秋	月	2	化学の世界D(生命の化学)	櫻村 吉晃	2	教・済・営・社	1~4	重5
9102509	理工	GR.1251	秋	月	5	科学技術史	庄司 高太	2	【共通】	1~4	
9102510	理工	GR.1251	春	月	2	海事技術史	南 清和	2	【共通】	1~4	地域、必6
9102511	理工	GR.1261	秋	木	4	情報科学	金田 徹	2	済・営	1~4	
9102512	理工	GR.1261	春	木	3	図形科学	金田 徹	2	【共通】	1~4	重6
9102513	理工	GR.1261	春	木	4	図形科学	金田 徹	2	【共通】	1~4	重6
9102514	理工	GR.1261	秋	木	3	図形科学	金田 徹	2	【共通】	1~4	重6
9102515	理工	GR.1211	春	木	2	数理科学 I	小関 健太	2	教・済・営・社	1~4	
9102516	理工	GR.1211	春	木	3	数理科学 I	小関 健太	2	教・済・営・社	1~4	
9102517	理工	GR.1211	秋	木	2	数理科学 II	野間 淳	2	教・済・営・社	1~4	
9102518	理工	GR.1211	秋	木	3	数理科学 II	野間 淳	2	教・済・営・社	1~4	
9102519	理工	GR.1241	春	木	5	生態工学	目黒 伸一	2	【共通】	1~4	
9102520	理工	GR.1211	春	月	3	線形代数 I	田中 秀和	2	教・済・営・社	1~4	重3
9102521	理工	GR.1211	春	月	4	線形代数 I	田中 秀和	2	済・営	1~4	重3
9102522	理工	GR.1211	春	水	1	線形代数 I	小島 教知	2	経営	1~4	重3
9102523	理工	GR.1211	秋	月	3	線形代数 II	田中 秀和	2	教・済・営・社	1~4	重4
9102524	理工	GR.1211	秋	月	4	線形代数 II	田中 秀和	2	済・営	1~4	重4
9102525	理工	GR.1211	秋	水	1	線形代数 II	小島 教知	2	経営	1~4	重4
9102526	理工	GR.1211	春	木	1	微分積分 I	熊谷 駿	2	経済	1~4	
9102527	理工	GR.1211	春	木	2	微分積分 I	熊谷 駿	2	経済	1~4	
9102528	理工	GR.1211	春	金	1	微分積分 I	平田 康史	2	経営	1~4	
9102529	理工	GR.1211	春	金	2	微分積分 I	平田 康史	2	経営	1~4	
9102530	理工	GR.1211	秋	木	1	微分積分 II	熊谷 駿	2	経済	1~4	
9102531	理工	GR.1211	秋	木	2	微分積分 II	熊谷 駿	2	経済	1~4	
9102532	理工	GR.1211	秋	金	1	微分積分 II	平田 康史	2	経営	1~4	
9102533	理工	GR.1211	秋	金	2	微分積分 II	平田 康史	2	経営	1~4	

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9102534	理工	GR.1221	春	木	5	物理の世界A	野村 高一	2	教・済・営・社	1～4	
9102535	理工	GR.1221	秋	木	5	物理の世界B	野村 高一	2	教・済・営・社	1～4	
9102536	理工	GR.1251	秋	月	6	海洋工学と社会	海洋空間のシステムデザインEP各教員	2	【共通】	1～4	地域、必6
9102537	理工	GR.1251	秋	月	7	海洋工学と社会	海洋空間のシステムデザインEP各教員	2	【共通】	1～4	地域、必6
9102538	理工	GR.1251	春	水	1	機械工学と社会とのかかわり合い	榎田 明宏	2	【共通】	1～4	必7
9102539	理工	GR.1251	春	水	4	機械工学と社会とのかかわり合い	高藤 圭一郎	2	【共通】	1～4	必7
9102540	理工	GR.1251	春	火	5	物質工学と社会	金井 俊光・他	2	【共通】	1～4	地域、必5
9102541	理工	GR.1251	春	木	4	物質工学と社会	金井 俊光・他	2	【共通】	1～4	地域、必5
9102542	理工	GR.1221	春	火	4-5	体験物理科学A	野村 高一・関谷 隆夫	2	教・済・営・社	1～4	
9102543	理工	GR.1221	秋	火	4-5	体験物理科学B	野村 高一・関谷 隆夫	2	教・済・営・社	1～4	
9102544	理工	GR.1231	春	火	4-5	基礎から学ぶ化学	権谷 佐織	2	教・済・営・社	1～4	
9102545	理工	GR.1231	秋	火	4-5	基礎から学ぶ化学	権谷 佐織	2	教・済・営・社	1～4	
9102546	理工	GR.1251	春	木	2	エネルギー工学序論	光島 重徳	2	【共通】	1～4	必5
9102547	理工	GR.1261	秋	月	4	コンピュータシステムとコミュニケーション	落合 秀樹・杉本 千佳・森 辰則	2	【共通】	1～4	
9102548	理工	GR.1251	春	火	3	材料学入門	中尾 航・材料工学EP各教員	2	【共通】	1～4	必8、他1
9102549	理工	GR.1251	春	火	5	材料学入門	中尾 航・材料工学EP各教員	2	【共通】	1～4	必8
9102550	理工	GR.1211	秋	火	3	数理学概論	野間 淳・数理学EP各教員	2	【共通】	1～4	必9
9102551	理工	GR.1221	春	金	4	物理学概論	上原 政智・物理学EP各教員	2	【共通】	1～4	必10
9102552	理工	GR.1261	春	金	3	電子情報システム概論	辻 隆男	2	【共通】	1～4	必11
9102553	理工	GR.1261	春	金	3	情報工学概論	長尾 智晴・情報工学EP各教員	2	【共通】	1～4	必12
9102554	理工	GR.1241	秋	木	4	生命科学	平塚 和之・他	2	【共通】	1～4	重5
9102555	理工	GR.1271	第2	火	3	環境リスクとつきあうⅡ	中井 里史・本藤 祐樹	1	【共通】	1～4	
9102556	理工	GR.1251	春	火	1	身の回りの科学	荒牧 賢治・亀屋 隆志・雨宮 隆	2	【共通】	1～4	
9102557	理工	GR.1211	春	木	3	現代の数理学C	中本 敦浩	2	【共通】	1～4	
9102601	都市	GU.1261	春	水	4	情報と社会	後藤 真	2	【共通】	1～4	
9102602	都市	GU.1271	秋	水	3	建築の環境と防災	杉本 訓祥・他	2	【共通】	1～4	地域、重7
9102603	都市	GU.1271	秋	月	4	都市と建築	藤原 徹平・他	2	【共通】	1～4	重7
9102604	都市	GU.1271	春	月	5	地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	志村 真紀・内海 宏	2	教・済・営・理	1～4	地域
9102605	都市	GU.1221	第4	火	3	地球と惑星の科学Ⅰ	大河原 にい葉	1	【共通】	1～4	
9102606	都市	GU.1221	第5	火	3	地球と惑星の科学Ⅱ	大河原 にい葉	1	【共通】	1～4	
9102607	都市	GU.1241	第1	火	4	生物の世界Ⅰ	下出 信次・他	1	【共通】	1～4	
9102608	都市	GU.1241	第2	火	4	生物の世界Ⅱ	下出 信次・他	1	【共通】	1～4	
9102610	都市	GU.1251	第4	金	2	土木史と文明Ⅰ	細田 暁	1	【共通】	1～4	重8
9102611	都市	GU.1251	第5	金	2	土木史と文明Ⅱ	細田 暁	1	【共通】	1～4	重8
9102613	都市	GU.1251	第1	火	4	国土学とグローバル社会Ⅰ	勝地 弘・他	1	【共通】	1～4	
9102614	都市	GU.1251	第2	火	4	国土学とグローバル社会Ⅱ	勝地 弘・他	1	【共通】	1～4	
9102615	都市	GU.1271	第1	火	3	環境リスクとつきあうⅠ	中村 達夫・他	1	【共通】	1～4	
9102616	都市	GU.1271	第4	火	4	環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 暁子・他	1	【共通】	1～4	地域
9102617	都市	GU.1271	第5	火	4	環境をめぐる諸問題Ⅱ	松田 裕之・他	1	【共通】	1～4	地域
9102620	都市	GU.1271	第1	木	2	地球誕生のしくみ	石川 正弘	1	教・済・営	1～4	
9102621	都市	GU.1272	春	不定期		MAB/SDGsグローバル化演習Ⅰ	小池 文人・他	2	【共通】	1～4	重9
9102622	都市	GU.1272	秋	不定期		MAB/SDGsグローバル化演習Ⅱ	小池 文人・他	2	【共通】	1～4	重9
9102623	都市	GU.2272	春	水	4	MAB計画とSDGs	松田 裕之・クリュスナー＝ゴット、ミゲル	2	教・済・営・理	1～4	
9102801	情報基盤セ	GI.1261	秋	月	3	情報セキュリティの基礎	志村 俊也	2	【共通】	1～4	
9102802	情報基盤セ	GI.1261	春	火	3	情報ネットワークシステムの基礎	志村 俊也	2	【共通】	1～4	
9102803	機器セ	GK.1251	春	月	2	物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に	谷村 誠	2	【共通】	1～4	
9102804	高大セ(LLS)	GA.1291	第2	火	3	科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	松本 真哉・権谷 佐織	1	【共通】	1～4	
9102805	高大セ(LLS)	GA.1291	第4	火	3	科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	松本 真哉・権谷 佐織	1	【共通】	1～4	
9102808	成長セ	GG.2251	秋	月	4	研究開発論－大学・企業・イノベーション－	為近 恵美	2	【共通】	2～4	
9102809	保健管理セ	GH.1281	秋	水	4	健康の科学	大重 賢治・藤川 哲也・福栄 太郎・杉山 明子	2	【共通】	1～4	

(3) グローバル教育科目

①世界事情科目

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9103071	国際	GQ.2711	春	水	6	パラグアイ事情	藤掛 洋子	2	【共通】	1~4	
9103072	国際	GJ.2711	第4	水	3-4	台湾事情	四方田 千恵・八木 はるな	2	【共通】	1~4	
9103073	国際	GJ.2711	春	火	4	韓国事情	金 蘭美	2	【共通】	1~4	
9103074	国際	GQ.2711	春	火	5	インドネシア事情	平野 恵子	2	【共通】	1~4	
9103075	国際	GQ.2711	第3	集中		グローバル人材と持続的開発: JICE連携講座	田名部 元成	2	【共通】	1~4	
9103076	国際	GQ.2711	通年	不定期		SXIP国際協働演習	中村 一穂、田名部 元成、マッコレー、アレクサンダー、前田 雄介、吉武 英昭、伊藤 曉彦、鈴木 淳史	2	済・営・理	1~4	
9103077	国際	GQ.2711	第1	火	4	中国事情 I	徐 浩源・于 臣	1	【共通】	1~4	
9103078	国際	GQ.2711	第2	火	4	中国事情 II	徐 浩源・于 臣	1	【共通】	1~4	
9103079	国際	GQ.2711	秋	水	5	チャイニーズ・スピーキングリージョンズ	新沼 雅代	2	【共通】	1~4	
9103081	高大七(LLS)	GA.2711	秋	月	2	グローバル・シティズンシップ	金尾 国晴・山崎 圭一・山本 泰生・高橋 弘司・横尾 恒隆・中村 栄子	2	【共通】	1~4	
9103082	高大七(LLS)	GA.2711	秋	集中		現場から考える国際開発協力: JICA連携講座	小林 誉明	2	【共通】	1~4	
9103091	国際	GJ.1711	秋	月	3	日本事情 日本の就職事情	長谷川 健治	2	【共通】	1~4	留学1
9103092	国際	GJ.1711	春	月	3	日本事情 日本の企業システム	長谷川 健治	2	【共通】	1~4	留学2

②国際交流科目

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9103101	国際	GY.2722	秋	火	3	Plagiarism and its Regulations	渡邊 知子	2	【共通】	1~4	
9103102	国際	GY.2722	春	火	3	Business Planning with Intellectual Property	渡邊 知子	2	【共通】	1~4	
9103103	国際	GY.2722	春	木	3	Academic Presentation Skills	ランド、ネリダ	2	【共通】	1~4	
9103104	国際	GY.2722	秋	木	3	Business Presentation Skills	ランド、ネリダ	2	【共通】	1~4	
9103105	国際	GY.2722	春	金	2	Business Japanese Language and Culture A	松浦 光	2	【共通】	1~4	
9103106	国際	GY.2722	秋	金	2	Business Japanese Language and Culture B	松浦 光	2	【共通】	1~4	
9103107	国際	GY.2722	秋	金	3	Multiethnic Japan	長谷川 健治	2	【共通】	1~4	重10
9103108	国際	GY.2722	秋	不定期		Multiethnic Japan (Seminar)	長谷川 健治	1	【共通】	1~4	重10
9103109	国際	GY.2722	春	金	3	Yokohama Studies	長谷川 健治	2	【共通】	1~4	重11
9103110	国際	GY.2722	春	不定期		Yokohama Studies (Seminar)	長谷川 健治	1	【共通】	1~4	重11
9103111	国際	GY.2722	春	木	2	Legal Systems of the World and Japan	荒木 一郎	2	【共通】	2~4	
9103112	国際	GY.2722	秋	火	2	ICT Literacy I	徐 浩源	2	【共通】	1~4	
9103113	国際	GY.2722	春	月	1	Globalization and Regional Economic Integration	モイナティン、ムスタファ	2	【共通】	1~4	
9103114	国際	GY.2722	秋	水	2	Technology Enabled Business	田名部 元成	2	教・理・都	1~4	重12
9103115	国際	GY.2722	第5	木	5-6	Multicultural Societies in Comparative Perspective	コンベル、ラドミール	2	【共通】	1~4	
9103116	国際	GY.2722	春	水	2	Culture and Identity in Contemporary Japan 1	山下 瑤子	2	【共通】	1~4	
9103117	国際	GY.2722	秋	木	2	Culture and Identity in Contemporary Japan 2	山下 瑤子	2	【共通】	1~4	
9103131	経営	GB.2722	春	火	3	CSR/CSV and Japanese Companies	近藤 久美子	2	【共通】	1~4	
9103151	理工	GR.2722	秋	木	4	Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	跡部 真人・窪田 好浩・児嶋 長次郎	2	【共通】	1~4	
9103152	理工	GR.2722	春	金	3	Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	大野 かおる	2	【共通】	1~4	
9103153	理工	GR.2722	秋	金	4	Prospects of Mech Eng, Mater Sci and Ocean Eng	中野 健・佐藤 恭一	2	【共通】	1~4	
9103161	都市	GU.2722	春	火	6	Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	各教員	2	【共通】	1~4	
9103901	国際	GY.2722	春	不定期		Practice in International Diplomacy I A	未定	1	【共通】	1~4	
9103902	国際	GY.2722	秋	不定期		Practice in International Diplomacy I A	未定	1	【共通】	1~4	
9103903	国際	GY.2722	春	不定期		Practice in International Diplomacy I B	未定	1	【共通】	1~4	
9103904	国際	GY.2722	秋	不定期		Practice in International Diplomacy I B	未定	1	【共通】	1~4	
9103905	国際	GY.2722	春	不定期		Practice in International Diplomacy II A	未定	2	【共通】	1~4	
9103906	国際	GY.2722	秋	不定期		Practice in International Diplomacy II A	未定	2	【共通】	1~4	
9103907	国際	GY.2722	春	不定期		Practice in International Diplomacy II B	未定	2	【共通】	1~4	
9103908	国際	GY.2722	秋	不定期		Practice in International Diplomacy II B	未定	2	【共通】	1~4	
9103909	国際	GY.2722	春	不定期		Transcultural Practice in Overseas I	未定	1	【共通】	1~4	
9103910	国際	GY.2722	秋	不定期		Transcultural Practice in Overseas I	未定	1	【共通】	1~4	
9103911	国際	GY.2722	春	不定期		Transcultural Practice in Overseas II	未定	1	【共通】	1~4	
9103912	国際	GY.2722	秋	不定期		Transcultural Practice in Overseas II	未定	1	【共通】	1~4	
9103913	国際	GY.2722	春	不定期		International Volunteer I	未定	1	【共通】	1~4	
9103914	国際	GY.2722	秋	不定期		International Volunteer I	未定	1	【共通】	1~4	
9103915	国際	GY.2722	春	不定期		International Volunteer II	未定	2	【共通】	1~4	
9103916	国際	GY.2722	秋	不定期		International Volunteer II	未定	2	【共通】	1~4	

(4) イノベーション教育科目

①入門的基幹知（領域）

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9104011	教育	GS.1811	秋	木	4	現代社会と心理学	高本 真寛	2	【共通】	1~4	
9104012	教育	GS.2811	春	月	2	ESD(持続可能な開発のための教育)と文化史	一柳 廣孝	2	済・営・理・都	1~4	
9104021	経済	GE.2812	第1	水	2-3	Global Economy	余 璐君	2	【共通】	2~4	重13
9104031	経営	GB.1811	秋	金	3	デモクラシー概論	飛田 綾子	2	【共通】	1~4	
9104051	理工	GR.1811	春	月	4	数理・データサイエンス・AI入門	上松 大輝	2	【共通】	1~4	
9104052	理工	GR.1811	春	月	5	数理・データサイエンス・AI入門	上松 大輝	2	【共通】	1~4	
9104053	理工	GR.1811	秋	月	4	数理・データサイエンス・AI入門	栗田 智香子	2	【共通】	1~4	
9104054	理工	GR.1811	秋	月	5	数理・データサイエンス・AI入門	広瀬 陽一	2	【共通】	1~4	
9104061	都市	GU.2811	第4	火	4	都市科学B(リスク共生)	各教員	1	教・済・営・理	1~4	
9104062	都市	GU.2811	第5	火	4	都市科学C(イノベーション)	各教員	1	教・済・営・理	1~4	
9104063	都市	GU.2811	第4	水	1	都市環境リスク共生論A	佐土原 聡	1	教・済・営・理	2~4	
9104064	都市	GU.2811	第2	金	5	都市科学A(グローバル・ローカル)	各教員	1	教・済・営・理	1~4	
9104081	情報基盤セ	GI.1811	第3	集中		数理・データサイエンス・AI入門	田名部 元成・山本 光・松井 和巳・志村 俊也	2	【共通】	1~4	
9104082	情報基盤セ	GI.1811	第6	集中		数理・データサイエンス・AI入門	田名部 元成・山本 光・松井 和巳・志村 俊也	2	【共通】	1~4	
9104083	高大セ(LLS)	GA.2811	秋	木	4	スキル向上につなげる「英語」	小林 正佳	2	【共通】	1~4	
9104084	高大セ(LLS)	GA.2811	第4	水	6	理系学生のための企業法務入門1	芳賀 良	1	【共通】	1~4	
9104085	高大セ(LLS)	GA.2811	第5	水	6	理系学生のための企業法務入門2	芳賀 良	1	【共通】	1~4	
9104086	高大セ(LLS)	GA.2811	秋	水	3	里山でつなぐESD考	倉田 薫子	2	【共通】	1~4	
9104087	高大セ(LLS)	GA.2811	第2	水	6	「起業と法」研究成果を社会実装するために」	芳賀 良	1	【共通】	1~4	
9104088	高大セ(LLS)	GA.2811	第4	木	1	都市科学を探索する	勝地 弘・藤掛 洋子	1	【共通】	1~4	

②技術革新思考（領域）

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9104121	経済	GE.2821	春	火	3	数理統計	永井 圭二	2	【共通】	2~4	重13
9104151	理工	GR.2821	春	月	2	システム・エンジニアリング	藤井 友比呂	2	【共通】	1~4	地域
9104152	理工	GR.2821	秋	火	4	イノベーションと社会	平田 照二	2	【共通】	2~4	

③社会実装戦略（領域）

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9104201	高大セ(LLS)	GA.2831	春	月	3	横浜市における地球温暖化対策ワークショップ	松本 真哉・氏川 恵次	2	【共通】	1~4	
9104202	高大セ(LLS)	GA.2831	秋	金	1	多様性を尊重する成熟社会とその基盤	石崎 由希子	2	【共通】	1~4	
9104203	地域セ	GC.1831	春	不定期		地域課題実習Ⅰ	志村 真紀・他	1	【共通】	1~4	地域
9104204	地域セ	GC.1831	秋	不定期		地域課題実習Ⅱ	志村 真紀・他	1	【共通】	1~4	地域
9104205	地域セ	GC.2831	春	不定期		地域課題実習Ⅲ	志村 真紀・他	1	【共通】	2~4	地域
9104206	地域セ	GC.2831	秋	不定期		地域課題実習Ⅳ	志村 真紀・他	1	【共通】	2~4	地域
9104207	地域セ	GC.3831	春	不定期		地域課題実習Ⅴ	志村 真紀・他	1	【共通】	3~4	地域
9104208	地域セ	GC.3831	秋	不定期		地域課題実習Ⅵ	志村 真紀・他	1	【共通】	3~4	地域
9104221	経済	GE.3831	春	木	1	知的財産法	濱口 太久未	2	【共通】	3~4	重13
9104222	経済	GE.2831	秋	月	3	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	石原 健一	2	教・理・都	2~4	
9104231	経営	GB.3831	秋	木	2	国際イノベーションマネジメント論	大沼 雅也	2	教・理・都	3~4	
9104232	経営	GB.2831	春	火	2	技術経営論	真鍋 誠司	2	教・理・都	2~4	
9104233	経営	GB.2831	春	木	3	イノベーション・マネジメント概論	安本 雅典	2	【共通】	1~4	
9104251	理工	GR.2831	秋	木	3	工業経営	西原 利昭	2	【共通】	1~4	
9104261	都市	GU.2831	第4	木	3	地域・都市計画	松行 美帆子	1	【共通】	2~4	重14

④キャリア形成実践知（領域）

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9104301	高大セ	GA.2841	秋	月	3	ビジネス・コミュニケーション	市村 光之	2	【共通】	2~4	
9104302	高大セ	GA.3841	秋	木	4	キャリア・ケーススタディ	市村 光之	2	【共通】	2~4	
9104303	高大セ	GA.1841	春	水	2	Wake up! プロジェクト	市村 光之	2	【共通】	1	
9104306	高大セ	GA.1841	春	月	3	キャリアデザイン	市村 光之	2	【共通】	1~4	
9104307	高大セ	GA.2841	秋	水	3	グローバル化と日本人	市村 光之	2	【共通】	1~4	地域
9104308	高大セ(LLS)	GA.2841	春	火	1	「科学的思考」を武器にする	窪田 好浩	2	【共通】	1~4	
9104309	高大セ(LLS)	GA.2841	秋	水	2	「科学的思考」を武器にする	窪田 好浩	2	【共通】	1~4	
9104310	ダイバーシティ	GD.2841	秋	水	3	ダイバーシティ&インクルージョン入門	高野 陽介・他	2	【共通】	1~4	

★YNU リーディング・レクチャ・シリーズ (YNU Leading Lecture Series) (再掲)

時間割コード	開講部局	ナンバリング	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	備考
9101803	高大セ(LLS)	GA.1111	第1	火	3	明日のための東洋思想入門Ⅰ	于 臣	1	【共通】	1～4	
9101804	高大セ(LLS)	GA.1111	第2	火	3	明日のための東洋思想入門Ⅱ	于 臣	1	【共通】	1～4	
9101805	高大セ(LLS)	GA.1161	秋	水	1	安全・リスクと法	石崎 由希子・笹岡 愛美	1	【共通】	1～4	
9102804	高大セ(LLS)	GA.1291	第2	火	3	科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	松本 真哉・権谷 佐織	1	【共通】	1～4	
9102805	高大セ(LLS)	GA.1291	第4	火	3	科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	松本 真哉・権谷 佐織	1	【共通】	1～4	
9103081	高大セ(LLS)	GA.2711	秋	月	2	グローバル・シティズンシップ	<small>全英 園崎・山崎 圭一・山本 泰生・高橋 弘寿・横尾 朝隆・中村 栄子</small>	2	【共通】	1～4	
9103082	高大セ(LLS)	GA.2711	秋	集中		現場から考える国際開発協力：JICA連携講座	小林 誉明	2	【共通】	1～4	
9104083	高大セ(LLS)	GA.2811	秋	木	4	スキル向上につなげる「英語」	小林 正佳	2	【共通】	1～4	
9104084	高大セ(LLS)	GA.2811	第4	水	6	理系学生のための企業法務入門1	芳賀 良	1	【共通】	1～4	
9104085	高大セ(LLS)	GA.2811	第5	水	6	理系学生のための企業法務入門2	芳賀 良	1	【共通】	1～4	
9104086	高大セ(LLS)	GA.2811	秋	水	3	里山でつなぐESD考	倉田 薫子	2	【共通】	1～4	
9104087	高大セ(LLS)	GA.2811	第2	水	6	「起業と法－研究成果を社会実装するために－」	芳賀 良	1	【共通】	1～4	
9104088	高大セ(LLS)	GA.2811	第4	木	1	都市科学を探索する	勝地 弘・藤掛 洋子	1	【共通】	1～4	
9104201	高大セ(LLS)	GA.2831	春	月	3	横浜市における地球温暖化対策ワークショップ	松本 真哉・氏川 恵次	2	【共通】	1～4	
9104202	高大セ(LLS)	GA.2831	秋	金	1	多様性を尊重する成熟社会とその基盤	石崎 由希子	2	【共通】	1～4	
9104308	高大セ(LLS)	GA.2841	春	火	1	「科学的思考」を武器にする	窪田 好浩	2	【共通】	1～4	
9104309	高大セ(LLS)	GA.2841	秋	水	2	「科学的思考」を武器にする	窪田 好浩	2	【共通】	1～4	

◆開講部局・対象学部

開講部局	対象学部	名称
教育	教	教育学部、教育人間科学部
経済	済	経済学部
経営	営	経営学部
国社		国際社会科学府
理工	理	理工学部
都市	都	都市科学部
	社	都市科学部都市社会共生学科
国際		国際戦略推進機構
高大セ		高大接続・全学教育推進センター
情報基盤セ		情報基盤センター
機器セ		機器分析センター
ダイバーシティ		ダイバーシティ戦略推進本部
リスクセ		リスク共生社会創造センター
地域セ		地域実践教育センター
成長セ		成長戦略研究センター
保健管理セ		保健管理センター
高大セ (LLS)		YNUリーディングレクチャーシリーズ

注釈 ◆備考：必 → 必修・選択必修 関係 (P.19 参照) / 重 → 重複履修禁止 関係 (P.59 参照)

必1	教育職員免許状取得希望者は「日本国憲法」2単位を必修とします。
必2	経営学部「経営学科DSEP」の必修科目。
必3	経営学部「経営学科」の必修科目（社会人教育プログラムを除く）。
必4	理工学部「機械・材料・海洋系学科海洋空間のシステムデザインEP」の選択必修科目。
必5	理工学部「化学・生命系学科」の準必修科目。
必6	理工学部「機械・材料・海洋系学科海洋空間のシステムデザインEP」の必修科目。
必7	理工学部「機械・材料・海洋系学科機械工学EP」の必修科目。
必8	理工学部「機械・材料・海洋系学科材料工学EP」の必修科目。
必9	理工学部「数物・電子情報系学科数理学EP」の必修科目。
必10	理工学部「数物・電子情報系学科物理工学EP」の必修科目。
必11	理工学部「数物・電子情報系学科電子情報システムEP」の必修科目。
必12	理工学部「数物・電子情報系学科情報工学EP」の必修科目。
重1	この科目は教育職員免許状取得を希望しない学生は履修できません。 教育学部の「学外活動・学外学習Ⅱ」と重複して単位を取得することはできません。
重2	教育学部の学生（2018年度以前の入学生を除く）はこの科目を履修することができません。
重3	「線型代数Ⅰ」「数学Ⅰ」は、片方の科目のみ履修することができます。すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。
重4	「線型代数Ⅱ」「数学Ⅱ」は、片方の科目のみ履修することができます。すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。
重5	「化学の世界D（生命の化学）」「生命科学」は、片方の科目のみ履修することができます。 すでにどちらかの科目を修得した者は履修できません。
重6	「図学Ⅰ」（専門基礎科目）と重複して単位を取得することはできません。 また、「図学Ⅰ」を開講していない学部及び学科を優先します。
重7	都市科学部「建築学科」の学生は履修できません。
重8	都市科学部「都市社会共生学科」「都市基盤学科」の学生は履修できません。 学部教育科目として同一科目が開講されますので、希望する場合はそちらを履修してください。 詳細は都市科学部履修案内で確認してください。
重9	都市科学部「環境リスク共生学科」の学生は履修できません。 学部教育科目として同一科目が開講されますので、希望する場合はそちらを履修してください。 詳細は都市科学部履修案内で確認してください。
重10	「Multiethnic Japan」「Multiethnic Japan (Seminar)」は、同一学期内に同時履修することが必須です。 片方の科目だけを履修することはできません。
重11	「Yokohama Studies」「Yokohama Studies (Seminar)」これらの科目は、同一学期内に同時履修することが必須です。 片方の科目だけを履修することはできません。
重12	経済学部及び経営学部の学生は履修できません。経営学部における学部教育科目として同一科目が開講されますので、希望する場合はそちらを履修してください。詳細は経済学部及び経営学部時間割表等で確認してください。
重13	経済学部・経営学部生には「学部教育科目」としても開講しています。重複して履修することはできませんので、履修登録の際は注意してください。
重14	都市科学部「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」の学生は履修できません。 学部教育科目として 同一科目が開講されますので、希望する場合はそちらを履修してください。 詳細は都市科学部履修案内で確認してください。
地域	この科目は地域交流科目です。全学教育科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子を確認してください。
留学1	この科目は留学生のみが履修可能です。
留学2	この科目は留学生対象の科目です。留学生以外で履修を希望する学生は、別途案内を確認してください。
他1	理工学部「機械・材料・海洋系学科材料工学EP」1年次生対象クラス。

【授業科目名変更等に伴う重複履修の禁止科目について】

次の表の「2023年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

番号	開講部局	2023年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目	直近年度
1	教育	現代社会と心理学	心理学B	-2022
2	教育	教育から見たSDGsと共生社会	障害者とともに考えるSDGsと共生社会	-2021
3	教育	ESD(持続可能な開発のための教育)入門	ESD(持続可能発展教育)入門	-2017
4	教育	ESD(持続可能な開発のための教育)入門	ESD(持続可能な開発のための教育)と消費者教育	-2021
5	教育	オリンピック・パラリンピックから考えるダイバーシティ	2020年東京オリンピック・パラリンピックと共生社会	-2019
6	教育	ESD(持続可能な開発のための教育)と文化史	日本の近代文学	-2017
7	経営	美術と社会	美学及び美術史Ⅰ	-2019
8	経営	美術と社会	美学及び美術史Ⅱ	-2019
9	経営	歴史	歴史Ⅰ	-2019
10	経営	歴史	歴史Ⅱ	-2019
11	経営	統計学のための基礎数学	統計学Ⅰ-B	-2020
12	経営	統計学のための基礎数学	統計学Ⅱ-B	-2020
13	経営	化学	化学Ⅰ	-2019
14	経営	化学	化学Ⅱ	-2019
15	経営	デモクラシー概論	社会科学概論Ⅰ	-2020
16	経営	デモクラシー概論	社会科学概論Ⅱ	-2020
17	経営	国際イノベーションマネジメント論	グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅰ<経営学部教育科目/専門科目>	-2020
18	経営	技術経営論	比較技術経営論Ⅰ<経営学部教育/専門科目>	-2020
19	経営	統計学基礎	統計学Ⅰ-A	-2022
20	経営	統計データ分析	統計学Ⅱ-A	-2022
21	経営	理工学のための統計学Ⅰ	統計学Ⅰ-C	-2022
22	経営	理工学のための統計学Ⅱ	統計学Ⅱ-C	-2022
23	国社	現代社会と法	現代と法	-2020
24	国社	社会の制度を考える	法と人間	-2020
25	理工	化学の世界D(生命の化学)	生命科学	-2021
26	理工	生命科学	化学の世界D(生命の化学)	-2021
27	理工	Prospects of Mech Eng, Mater Sci and Ocean Eng	Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	-2020
28	都市	論理の哲学	哲学	-2020
29	都市	宗教と社会	宗教学	-2020
30	都市	アジアの社会と思想	東洋思想史	-2020
31	都市	近現代芸術論	現代芸術論	-2020
32	都市	地球誕生のしくみ	地球科学<都市科学部学部教育科目>	-2020
33	都市	地球誕生のしくみ	地質学<理工学部学部教育科目>	-2020
34	都市	Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci	-2017
35	都市	都市科学A(グローバル・ローカル)(1単位)	都市科学A(グローバル・ローカル)(2単位)	-2020
36	都市	地域・都市計画	都市計画と交通	-2020
37	国際	日本事情 日本の就職事情	日本事情 日本で働く	-2017
38	国際	Legal Systems of the World and Japan	World Legal Systems and Management Philosophy	-2020
39	国際	インドネシア事情(2単位)	インドネシア事情(1単位)	-2022
40	情報基盤セ	情報セキュリティの基礎	情報セキュリティ入門	-2019
41	情報基盤セ	情報ネットワークシステムの基礎	情報ネットワークシステム入門	-2019
42	高大セ(LLS)	科学文章の書き方-悪文から学ぶ(1単位)	科学文章の書き方-悪文から学ぶ(2単位)	-2021
43	高大セ(LLS)	理系学生のための企業法務入門1	理系学生のための企業法務入門~はじめて学ぶ法務リテラシー	-2021
44	高大セ(LLS)	横浜市における地球温暖化対策ワークショップ	Zero Carbon Yokohama-文理融合・産官学民で考えるサステナビリティ	-2019
45	高大セ(LLS)	多様性を尊重する成熟社会とその基盤(2単位)	多様性を尊重する成熟社会とその基盤(1単位)	-2020
46	ダイバーシティ	ダイバーシティ&インクルージョン入門	ダイバーシティ概論:ライフキャリアの多様性	-2022

【開講形態相違等に伴う重複履修の禁止科目について】

本学で開講している科目には、科目名は同じであるが履修対象者によって全学教育科目か学部教育科目かなどの位置づけが異なるため、履修を制限している科目があります。次の表の「2023年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右のカテゴリー（<>）に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

番号	開講部局	2023年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目	直近年度
1	経済	Global Economy	Global Economy <経済学部教育科目/専門科目>	-2021
2	経済	数理統計	数理統計 <経済学部教育科目/専門科目>	-2021
3	経済	知的財産法	知的財産法 <経済学部教育科目/専門科目>	-2021
4	経済	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ <経済学部教育科目/専門科目>	-2022
5	経済	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ <経営学部教育科目/専門科目>	-2022
6	経済	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	経営者が語るこれからの企業戦略と若者へのメッセージ <経済学部教育科目/専門科目>	-2019
7	経済	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	経営者が語るこれからの企業戦略と若者へのメッセージ <経営学部教育科目/専門科目>	-2019
8	経営	国際イノベーションマネジメント論	国際イノベーションマネジメント論<経営学部教育科目/専門科目>	-2021
9	経営	技術経営論	技術経営論 <経営学部教育科目/専門科目>	-2021
10	理工	電子情報システム概論	電子情報システム概論 <理工学部教育科目>	-2020
11	理工	情報工学概論	情報工学概論 <理工学部教育科目>	-2019
12	理工	工業経営	工業経営 <理工学部教育科目/専門科目>	-2021
13	国際	Technology Enabled Business	Technology Enabled Business (国際交流科目)	-2021
14	国際	Technology Enabled Business	Technology Enabled Business <経営学部教育科目/専門科目>	-2021
15	国際	Technology Enabled Business	Technology Enabled Business <YCCS専門>	-2021